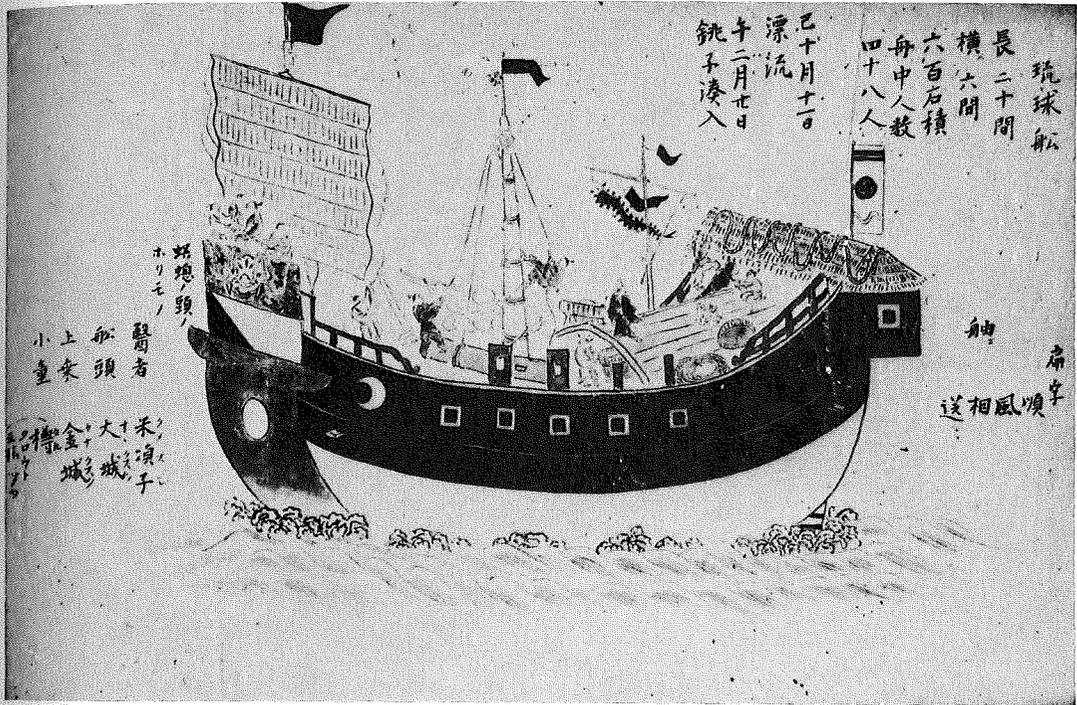


沖繩県立博物館年報

No. 13



1980

沖繩県立博物館

目 次

序	館長 外間 正 幸	
沿 革		(1)
日誌(抄)		(2)
施設・設備		(8)
組 織		(10)
事 業		(12)
1. 展 示		(14)
2. 調査・研究活動		(25)
3. 資料収集活動		(28)
4. 資料整理		(29)
5. 資料保存・修理		(29)
6. 教育普及活動		(30)
入館者数		(34)
予算の推移		(38)
資 料		(39)
1. 収蔵資料現在高		(39)
2. 昭和54年度収蔵資料		(39)
3. 新収蔵資料内容		(40)
4. 新収蔵図書		(43)
当館関係条例規則(抄)		(52)

※表紙写真 琉球船之図

序

昭和54年度は空調や防災面をはじめ、各展示室の照明その他を十分に整備し、「日本の美—救世熱海美術館名品展」を無事に、かつ盛況裏に開催できたことは、当館にとって大きなよこびでありました。55年度も整備に万全を期し、恐竜展を立派に開催したいと思っております。本年度で身障者や老人用の通路も一応整備を終りましたので、これからは安心して観覧いただけるものと思います。

収集の面では、赤絵葡萄文急須や螺鈿箔絵料紙箱の貴重なものを入手し、また、ハワイのジージ・H・ケア氏から、バジルホール『大琉球航海記』、彦根市、井伊文子氏から（ウマントン・漆器・織物）、東京都、長坂千代氏から、（義村朝義関係資料）などの、それぞれ貴重な資料の寄贈を受け、その他にも自然、考古、歴史、美術工芸の各種の資料が内外の多くの方々から寄贈されました。それらの資料については例年のとおり、新収蔵品展を催して一般に公開し、また今年是新収蔵品展の図録も発行して、寄贈者の方々に贈呈しました。

それから、当館ではこれまで収集や館の整備に力を注いできましたが、こんごは、離島や遠く離れて博物館を利用する機会の少ない所に住む人々のために、移動博物館を企画し、本年は久米島で開催して、好評を博しました。また、離島の総合調査も企画し、才1回目は粟国島の総合調査を行って無事に終了し、報告書を出しました。

一方、年々増大していく観客や見学に訪れる児童、生徒のために、当館では「博物館を利用する人々のために」を発刊し、同時に今年度結成された博物館友の会の機関紙も発行されました。こんご博物館が益々充実し、一般の人々からも親しまれることと思います。これまでの多くの人々の御協力を感謝し、これからもどうか御協力賜わるよう、よろしく願い申し上げます。

昭和55年6月

沖縄県立博物館長 外間正幸

沿革

- 1946年4月 (昭和21年) 沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」(当館の前身)と改称。
館長大嶺薫就任(1953年5月退職)
- 1947年12月 (昭和22年) 首里市立郷土博物館は沖縄民政府に移管され、「首里博物館」と改称。
館長豊平良顕就任(1948年3月退職)
- 1948年8月 館長原田貞吉就任
- 1953年5月 (昭和28年) 首里当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館落成。東恩納博物館と合併し規模拡大する。
- 1955年5月 1955年5月館長原田貞吉退職。
- 1955年8月 館長山里永吉就任
- 1955年9月 首里博物館を「琉球政府立博物館」と改称。
- 1958年8月 館長山里永吉退職
- 1958年9月 館長金城増太郎就任
- 1961年12月 館長金城増太郎退職
- 1962年2月 館長大城知善就任
- 1965年 首里大中町尚家跡土地購入(195,751ドル)
- 1966年10月 (昭和41年) 米国援助により、首里大中町の尚家跡に鉄筋コンクリート建(3,294㎡、1階356,000ドル)の新館が落成移転。
- 1969年11月 館長大城知善勲奨退職
- 1969年12月 館長外間正幸就任
- 1972年5月 (昭和47年) 日本復帰に伴い、名称を「沖縄県立博物館」と改称。
- 1973年2月 (昭和48年) 国庫補助を得て1,573㎡(102,484,000円)の2階を増築。展示室が3室ふえる。
- 1976年4月 創立30周年記念事業挙行。
- 1979年4月 (昭和54年) 入館料一般50円を100円に、大学・高校生を50円に、中小学生10円を20円に改正。また、特別企画展の入館料は500円を超えない範囲内でその都度決める。
- 1979年8～12月 空調・防災総替え工事2ヶ年計画で着工、本年度は展示室のみ完了。
- 1980年1月12～2月3日 (昭和55年) 「救世熱海美術館名品展」ならびに「沖縄県立博物館名品展」開催、期間中76,000余名観覧。
- 1980年2月 才1回移動博物館、久米島具志川村、仲里村、両教委共催。
- [付]
- 1936年7月 (昭和11年) 沖縄県教育会附設として「沖縄郷土博物館」首里城内北殿を使用して開館される。貴重な文化財が数千点収蔵されていた。
- 1945年3～5月 (昭和20年) 沖縄戦で「沖縄郷土博物館」全焼。
- 1945年8月 米国海軍軍政府により残欠文化財が収集され、石川市東恩納に「沖縄陳列館」設立される。
- 1946年3月 (昭和21年) 首里城周辺の廃墟から残欠文化財の収集活動が行われ、「首里市立郷土博物館」が設立される。

日誌（抄）

（昭和54年4月1日～昭和55年3月31日）

4. 1 本日より改正料金によって入館料を徴収（一般50円を100円に、高・大学生50円、小・中学生10円を20円に改正）。
- 2 教育普及補助員本年度より一人設置。
- 3 ①新館建設計画案作成。
②山里永吉氏、大嶺米子氏来館。
③吉松軍八氏来館。
④大嶺コレクションの収蔵資料作成（11日、12日も）
- 5 日本銀行監事秋田克彦氏同那覇支店長上山純氏の案内で来館。
- 6 宮崎県企画調整部長横尾敬三郎氏他2人來館。
- 8 沖縄民俗研究会（於当館会議室）
- 10 ①柏姓家譜正統老冊寄贈される（柏姓門中より）。
②ソ連科学アカデミー移動博物館長夫妻、同副館長夫妻、原田篤子女史来館。
③琉大工芸科展示会（於特別展示室）、15日まで。
- 11 インド大使一行来館。
- 13 大山盛保氏来館。
- 14 文化講座特別講演ソ連科学アカデミー古生物研究所移動博物館長ニコライ・クラマレンコ氏御夫妻、同副館長アレケサンドル・ポルマレンコ氏御夫妻、通訳原田篤子女史講演のため来館。
- 18 民族文化映像研究所々長姫田忠義氏来館。
- 19 ①島ひろ子タピストリー展（4月22日まで）。
②映画鑑賞会「イヨマンテ」、「諸鈍シバヤ」。
- 21 ①那覇地裁判所々長廣木重喜氏来館。
②諸喜田喜徳氏より書跡古文書類18点寄贈さる。
- 24 ①当館創立記念日につき入館料無料。
②映画鑑賞会「琉球の民芸」「海の民」「沖縄」「琉球の風物」。
- 25 福岡高等裁判所長官緒方節郎氏来館。
- 26 沖博協幹事会（於当館会議室）。
- 27 博物館協議会（会長に安次富長昭氏琉大教授。副会長に真栄田邦男氏県立首里高等学校長を選出）
- 28 オ62回文化講座「沖縄の民話」講師遠藤庄司氏（沖国大助教授）。
5. 1 仲尾次政隆の墓より厨子甕の寄贈あり（仲尾次政剛氏）搬入する。
2 沖博協理事会（於当館会議室）。
8 中華人民共和国駐日本国特命全権大使符浩氏ら来館。
11 新収藏品展オープン（31日まで）。
12 ①琉大教授職員会主催学術講演会ホール使用。
(1)「南極における人間像」講師木崎甲子郎（琉大教授）。
(2)「進化する宇宙」講師小尾信弥（東大教授）。
②沖縄民俗研究会（於当館会議室）。
- 15 オ8回復帰記念日
- 16 館長九博協総会理事会へ出席。
- 17 全国教育長協議会オ3部会佐久田昌一静岡県教育長他20名来館。
- 18 ①茨城県議会企画企業委員会14名来館。
②北九州市立歴史博物館長小林安司氏他1人來館。
- 24 県博協議会へ新館計画基本構想説明。

- 26 ①才63回文化講座「ケラマジかと保護のはなし」講師池原貞雄氏(琉大教授)、新納義馬氏(同)。
 ②宮城安秀氏(在東京)より鄭嘉訓書巻物一卷寄贈さる。
 ③鹿児島島の綾小路氏と鄭嘉訓書巻物一卷の購入契約を結ぶ。
- 28 ①謝花雲石書39幅あづかる(謝花家より)
 ②新館構想教育長へ説明。
 ③鐘楼通路工事開始(桃原農園)。
- 29 救世熱海美術館事務局長堀内武夫氏他5名来館。
- 30 読谷歴史民俗資料館の関係者数人施設拡充計画に伴う意見聴取のため当館職員と話し合い。
6. 1 バジルホールの初版本、ならびに初版本に使用した原画等知事室で贈呈式。(ジョージ・H. ケア博士より)。
 6 大嶺薫美術館側と話し合いを持つ(当館側館長、副館長、上江洲学芸係長、美術館側大嶺米子氏真栄田義見氏中村理鶴代氏出席)。
 7 ソ連大使ドミトリーポリヤンスキー氏一行来館。
 9 「イザイホー」映画鑑賞会(於ホール)。
 10 沖縄民俗研究会(於当館会議室)。
 12 特別展「沖縄の洞穴と洞穴生物」オープン(7月1日まで)。
 13 ハワイ大学教授崎原貢氏来館。
 16 才64回文化講座「沖縄の漁業と糸満」講師上田不二夫氏(沖水高教諭)。
 25 県立首里高校内弁論大会ホール使用(25. 26. 28日まで)。
 28 諸喜田氏、宮城安秀氏へ感謝状贈呈。
 30 沖縄考古学会ホール使用。
7. 3 ベトナム社会主義共和国駐日ベトナム大使館グエンタンヴェン氏(2等書記館)来館。
 4 標本「コウモリ5点トカケモドキ4点」下謝名松栄氏より寄贈さる。
 5 「新匠工芸展」オープン(7月15日まで)オープニングパーティーあり。
 7 沖縄民俗研究会(於当館会議室)。
 8 開南小PTA(親子)団体見学150名。
 10 フィルム「沖縄の陶器」はいる。
 11 沖六鵬氏より「雲龍文貼付壺」1点寄贈さる(那覇市長一県知事→当館へ)。
 12 奄美大島知名町立中央公民館長豊島健吉氏他一名来館。
 13 ①真和志高校生約250人団体見学なお、(1)「東アジアから見た沖縄の城」。(2)「考古学から見た沖縄の城(ぐすく)」の講義を実施(於ホール)。
 ②那覇地区中学校美術研究会。
 ③熱海美術館中野氏堀内氏ら来館。
 15 本部町民具収集委員16名来館。
 17 美術評論家永竹威氏西日本新聞社普及事業部次長小島政昭氏来館。
 18 安谷屋正義回顧展オープニングパーティー
 19 安谷屋で義回顧展オープン(7月29日まで)。
 22 創作人形師田中伸幸氏沖縄三越の瀬底氏の案内で来館。
 24 沖縄県博物館協会総会研修会(於石垣市)出席のため館長上江洲学芸係長松田主事出発。
 26 県議会文教厚生委員会委員一行視察のため来館、新館建設構想等説明。
 28 才65回文化講座「博物館で描こう」講師与儀達治氏。

8. 1 山城耕雲遺作展オープン(8月5日まで)。
 2 前福岡市立史料館長三島格氏来館。
 7 「田名家文書」修理終了返還さる。
 9 名渡山愛順作油絵「水色地かすりを着る」(1962年作) 1点名渡山愛抔氏より寄贈さる。
 10 伊江島先史時代展(8月30日まで)。
 13 救世熱海美術館中野参与堀内事務長県教育長表敬訪問、そのあと新報社当館三者話し合い。
 15 与那覇豊政氏レインボーストーン3個寄贈さる。
 21 フイリッピン洲知事来館。
 22 ①対文協落合氏来館。
 ②暴風雨(23日まで)。
 24 空調・防災才1期工事「沖縄日立商品KK」に落札。
 25 才66回文化講座「先史時代の伊江島」講師安里嗣淳氏(文化課主任専門員)。
 26 救世熱海美術館長吉岡庸治氏他2人來館
 29 「やちむん会」(於当館会議室)。
 31 館長救世熱海美術館へ表敬訪問(新報社長とともに)。
9. 1 ①県指定「絹本著色花鳥図」孫億筆修理完了保管のため上江洲文化課専門員持参。
 ②フィルム「沖縄」「琉球の風物」日本テレビへ貸出す(貸出す交換条件としてプリント一本づつ寄贈すること)。
 ③オーストラリアの映画監督アーチ・ニコルソン氏調査のため来館。
 2 外間政彰氏の案内で創作和紙人形師城間早苗氏来館。
 4 映画フィルム「ルーブル美術館」フジテレビ沖縄テレビより寄贈さる。
 8 才1回空調防災才1期工事工程会議(以後毎週金曜日に会議をおこない、進捗状況等の報告話し合いがもたれることになった)。
 9 沖縄民俗研究会(於当館会議室)。
 10 くんじょう展示替えのため10から17日まで休館。
 11 くんじょう(12日まで)。
 19 ①皇宮警察本部護衛才2課警視田草川治恵氏ら十数名視察のため来館。
 ②故神山政良氏蔵資料鄭嘉訓他6点寄贈さる。
 20 沖縄県立博物館協議会開催。
 21 尚義清氏より「大明宣徳年製」銘入香炉1個5か年間の寄託受ける。
 22 長坂千代氏より絵画書等56点寄贈受ける。
 27 暴風雨のため11時40分で閉館(28日まで)。
 29 等々力氏より陶磁器民具書籍の寄贈受ける。
10. 2 ①やちむん会「沖縄の古窯」展オープン(14日まで)オープニングパーティーあり。
 ②対文協落合氏次年度特別展打ち合わせのため来館。
 6 才67回文化講座「沖縄の古窯を語る」大城精徳氏(陶磁器研究家)、宮城篤正(当館教育普及係長)、普天間敏(糸満高校教諭)。
 7 常陸宮ご夫妻来館(午後3時15分~4時10分)。
 8 「救世熱海美術館名品展」打ち合わせのため中野参与堀内事務長来館、4時同展実行委員会。
 9 ①外務省顧問牛場信彦氏来館。
 ②九州市長会夫人一行30名来館。

- 12 対文協落合氏来館。
- 14 ①やちむん会研究会（於当館会議室）。
②沖縄民俗研究会（於当館会議室）。
- 17 ①オ32回日本新聞協会一行300名来館。
②ブラジル国サンパウロ州サンピセン
テ市長伊波興祐氏他7名来館。
- 18 暴風雨のため閉館。
- 24 国・県指定美術工芸展オープン（11月
4日まで）。
- 25 ①長野県文教企業委20人来館（工藤俊
武委員長）。
②埼玉県労働部長長井五郎氏来館。
- 26 ①関東電気工事株式会社常務取締役運
寿雄氏来館。
②元文化庁主任文化財調査官森盛三氏
来館。
- 28 小祿婦人会団体見学ホール使用（説明
者新城徳裕氏）。
- 30 「ルーヴル美術館」試写会。
11. 1 ①朝日放送長原清氏来館。
②佐賀県知事香月熊雄氏来館。
③愛知県議会文教委員14名来館。
- 3 「文化の日」入館無料オ68回文化講座
午後10時と午後2時映写会。
- 7 県芸術祭工芸展オープン（11日まで）。
- 10 ①国会記者クラブ7名来館。
②京都伊藤勝一氏より漆器他寄贈さる
（文化課当間一郎主幹京都出張の際あ
づかり当館へ）。
- 11 沖縄民俗研究会（於当館会議室）。
- 14 沖縄県芸術祭美術展（11月18日まで）。
- 15 金城次郎作「厨子甕」一基沖縄タイム
ス社より寄贈さる。
- 17 別府大教授賀川光夫氏来館。
- 18 福井県議会議長他3名来館。
- 20 ①南風原朝光・名渡山愛順遺作2人展
オープン（12月2日まで）。
②青森県議会議員藤田重雄氏来館。
③文部技官鈴木規夫氏（美工課）来館。
- 21 厨子甕8基中城村伊舎堂比嘉氏より寄
贈さる。
- 22 成城大教授平山敏治郎氏ご夫妻来館。
- 24 文化財修理技術者協会講習会（於会議
室）、映写会(1)「うつわー食器の文化」
(2)「アイスの結婚式」(3)「甕島のトシ
ドン」。
- 25 ①オ69回文化講座「史跡めぐり」講師
知念勇学芸員。
②国学院大教授宮崎道生氏来館。
③跡見学園女子大助教授植松明石氏来
館。
- 26 洞穴研究会（於当館会議室）。
- 27 ①国立国会図書館吉田正夫氏来館。
②鹿大教授原口虎雄氏、同講師原口泉
氏来館。
③法大教授山本弘文氏来館。
④国連大学プロジェクトコーディネー
ーター林武氏来館。
- 28 ①佐賀女子短期大学長坂田力三氏来館。
②おなが園園長嶺井百合子氏来館。
- 29 築波大学比嘉先生安次富琉大教授の案
内で来館。
12. 1 井伊直愛氏同夫人文子氏より「琉球王
龍紋唐織衣」1点寄贈される。
2 陶芸研究家全子量重氏（大妻女子大講
師）来館。
3 「玉陵」（油絵F12）名渡山愛順氏作、
名渡山愛拡氏より寄贈受ける。
9 沖縄民俗研究会（於当館会議室）。
12 財政課担当官永山氏財務の友利氏の案

内で当館施設見学。

- 15 オ70回文化講座「グスクの話」講師嵩元政秀氏（興南高校教諭）。
- 18 昭和薬科大講師東京農大名誉教授常谷幸雄氏来館。
- 20 西日本新聞社へ陶磁器13点貸出（55年4月30日まで）。
- 22 オ4回琉大教授職員会学術講演会「世界の民俗音楽と沖縄」講師小泉文夫氏。
- 28 裏千家会長副会長来館。

55年

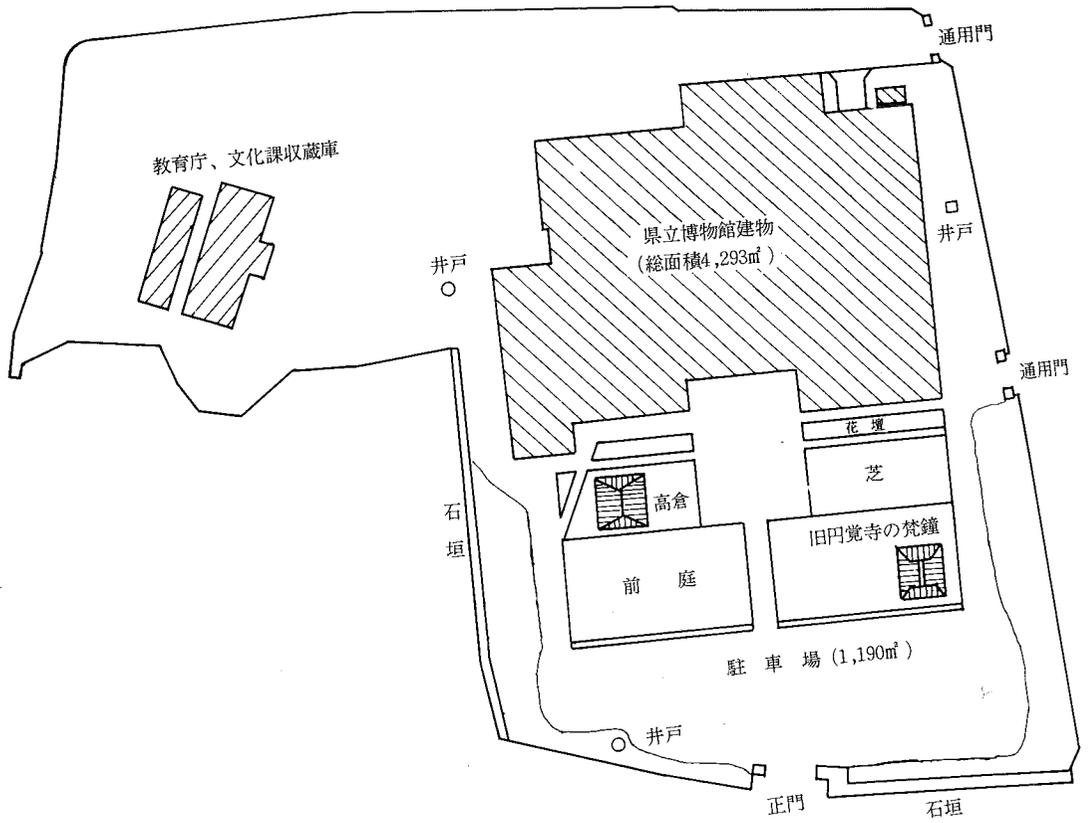
1. 4 ①仕事初め。
②特別展準備のため11日まで休館。
③千葉大教授沼田真氏来館。
- 7 ①ボランティア（救世教関係者）により館内外掃除。
②「救世熱海美術館名品展」の名品パトカー先導で搬入。
- 9 ①沖縄県立博物館友の会結成。
②青森県立郷土館主幹熊坂昭三氏ら来館。
- 10 松下隆章氏一行来館。
- 11 ①石川洋氏ロートン織反物寄贈さる。
②3時「救世熱海美術館名品展」ならびに「沖縄県立博物館名品展」開会式4時レセプション。
- 12 ①特別展「救世熱海美術館名品展」ならびに「沖縄県立博物館名品展」オープン（2月3日まで）。
②城西小学校全生徒、首里高校1、2年生全生徒団体見学。
③特別講演「日本美術の特性—救世熱海美術館名品展にふれて—」講師文化庁文化財保護審議会委員松下隆章氏。
④沖縄県博物館協会研修会。

⑤初日入館者数3,400人余。

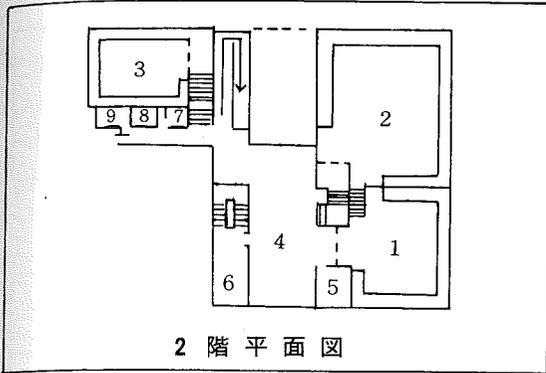
- 13 市内壺川より厨子甕25基寄贈あり上江洲学芸係長搬入する。
- 19 広島県議総務委員会一行12名来館（総務委員長前田寿氏）。
- 20 オ27回社会教育振興大会実態発表大城主任学芸員出席。
- 23 井伊家（文子氏）資料日航機にて到着。
- 26 比嘉副知事来館。
- 28 仲地利子氏より陶器6点寄贈受ける。
- 29 特別展入館者5万人目の新川節子さん（夫、子供とも）に館長より記念品贈呈さる。
- 30 井伊文子氏寄贈資料記者会見。
- 31 九州各県議会議長一行26名来館。
2. 3 ①開館前から見学者の列ができた。
②10:00頃から駐車場満車状態づく。
③2:00頃からときどき入館を止めて、調整した。
④入館時間を15分遅らし、5時15分入館をとめる閉館は6時、6:30から慰労会。
特別展最終日の入館者数11,955名、総入館者数760,250名、無事終了。
- 7 ①救世熱海美術館名品トラック積込み完了、午前6:15パトカー先導で当館出発オ1便宮城係長立会人として同行、オ2便館長同行。
②くんじょう3時投薬
- 9 オ4室入口スロープ工事工程会議。
- 12 救世熱海美術館長吉岡庸治氏、県教育長、比嘉副知事、那覇署長表敬訪問、後援協力団体へ特別展の報告と感謝の夕食会。
- 16 陶磁器修理終了9点受領。

- 17 沖縄民俗研究会（於当館会議室）。
- 18 漆器調査伊差川新氏文化課上江洲専門員
- 23 ①恐竜展共催の件で、教育長へ報告、
そして話し合い。
②オ71回文化講座「沖縄の自然と天
然記念物」新納義馬氏（琉大教授）。
- 24 さうんど幼稚園の発表会ホール使用。
- 26 オ1回移動博物館準備のため上江洲学
芸係長渡名喜学芸員ら久米島へ。
- 27 ①首里高校「染織展」（3月2日まで）
②オ1回移動博物館開催開会式に館長
出席。
3. 4 国立歴史資料館設立準備室長井上光貞
氏ら来館。
- 8 ①「ノロの神扇」修理おえ納入さる。
②文化財修理技術者協会講習会「土器
の修理—漆を用いて—」講師前田孝允
氏。
- 9 沖縄民俗研究会（於当館会議室）
- 15 博物館友の会評議員会。
- 21 フィジー国情報担当処理官来館。
- 22 オ71回文化講座「熱帯から亜熱帯の白
アリの生活」講師安部琢哉氏（琉大助
教授）。
- 23 早大文学部教授鹿野政直氏来館。
- 24 佐賀県立博物館副館長古野幸雄氏来館。
- 25 ①館長平和祈念資料館運営協議会へ出
席。
②窪徳忠氏来館。
- 27 文化財修理技術者講習会（於特別展室）
- 29 琉大「書道クラブ展」オープン（31日
まで）。
- 30 八重山石垣市立博物館 玻名城館長来館
大城精徳友の会長来館。

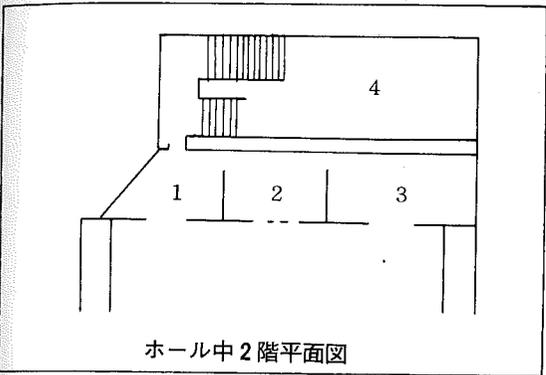
施設配置図



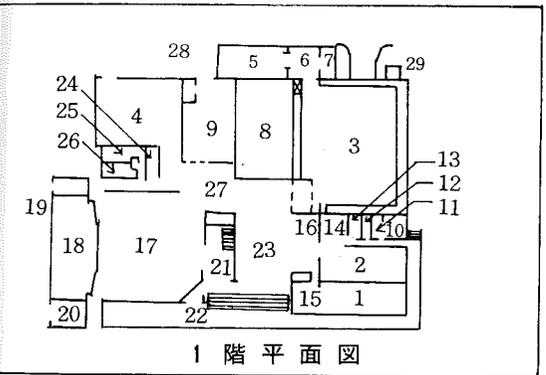
施設・設備



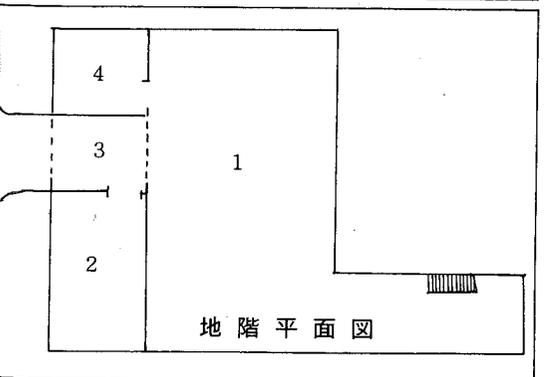
2階平面図



ホール中2階平面図



1階平面図



地階平面図

概要

敷地面積 (㎡)	1階 2,328	2階 1,564	地階 11,246㎡
展示面積		1階 632	2階 870
ロビー面積			計 1,502
収蔵庫面積			513
駐車場面積			507
庭園面積			1,190
冷房機			1,612
空調機			(チラー) 圧縮機 9kw × 4台 × 2機
			冷却能力 120,000 Kcal / H × 2機
			第1室 2.2kw
			第2室 1.5kw
			第3,4室 5.5kw
			第5室 0.75kw
			1階ショーケース 2.2kw
			2階ショーケース 1.5kw × 2機
			1階収蔵庫 2.2kw
			地下収蔵庫 2.2kw
			漆器収蔵庫 1.5kw
			事務室 2.2kw
			館長室 2.3kw
			講室 5.5kw

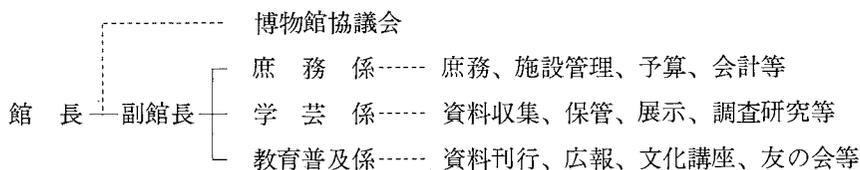
変電室	電灯 3P 100KVA × 1機
	動力 3P 200KVA × 1機
	動力 3P 250KVA × 1機
契約電力	285kw
講堂	客席数 1階 434席
	2階 196席
	計 630席
	デスク型アンプ 1台
	マイク 3台

室名と面積

2階	室番号	室名	面積 (㎡)
	1	(第3室) 美術工芸展示室	265
	2	(第4室) 民俗展示室	436
	3	(第2室) 陶磁器展示室	170
	4	ロビー	257
	5	空調室	29
	6	ホール控室	59
	7	化粧室(女)	6
	8	化粧室(男)	11
	9	空調室	12
ホール中2階	1	調光室	17
	2	映写室	19
	3	音響効果室	25
1階	室番号	室名	面積 (㎡)
	1	事務室	115
	2	資料室	56
	3	(第1室) 総合展示室	462
	4	(第5室) 特別展示室	170
	5	収蔵庫	120
	6	荷解場	32
	7	漆器収蔵庫	11
	8	中庭	152
	9	厨子壺収蔵庫	91
	10	宿直室	11
	11	湯沸室	8
	12	化粧室(男)	7
	13	化粧室(女)	9
	14	図書室	28
	15	館長室兼応接室	28
	16	模型コーナー(首里城)	18
	17	講堂(客席)	428
	18	ステージ	116
	19	控室	19
	20	控室	32
	21	講堂出入口	37
	22	守衛室	14
	23	ロビー	256
	24	倉庫	14
	25	化粧室(女)	21
	26	化粧室(男)	17
	27	売店	10
	28	空調室	11
	29	ポンプ室	5
地階	室番号	室名	面積 (㎡)
	1	収蔵庫	285
	2	冷房機室	58
	3	荷解場	28
	4	変電室	30

組 織

(1) 機 構



(2) 職員構成

職 名	氏 名	担 当 業 務	備 考
館 長	外 間 正 幸	博物館業務の総理に関すること。	
副 館 長	名 嘉 正八郎	館長補佐、庶務、施設管理、学芸、教育普及との調整に関すること。	
庶 務 係 長	”	(事務取扱)庶務、施設管理、予算、事業に関すること	
主 事	山 口 美代子	庶務、才入、予算編成事務に関すること。	
主 事	玉 村 良 子	予算決算、会計事務に関すること。	
技 師	下 地 栄	施設管理に関すること。	
用 務 員	比 嘉 ミ ツ	館内外の美化に関すること。	
学 芸 係 長	上江洲 均	学芸業務の統轄、民俗、書跡に関すること。	
主任学芸員	大 城 逸 郎	自然系地質、図書受入れに関すること。	
学 芸 員	渡名喜 明	歴史、漆器、染織ならびに展示業務に関すること。	
教育普及係長	宮 城 篤 正	教育普及業務の統轄ならびに絵画、陶磁器に関すること。	
学 芸 員	知 念 勇	考古、写真資料、文化講座広報等に関すること。	
充 指 導 主 事	当 山 昌 直	自然系、生物、写真撮影等に関すること。	
教育普及補助員	比 嘉 春 美	解説員 (委託業務)	
監 視	東 美智子	等一展示室 (委託業務)	
”	西 平 勝 子	第三展示室 (”)	
”	金 城 信 子	第四展示室 (”)	
”	本 部 光 子	第五展示室 (”)	
清 掃 業 務	金 城 ヨ シ	館内の清掃業務 (”)	
宿 直	玉 城 篤 正	宿直業務 (”)	
受 付		受付業務に関すること (賃金職員)	

54年度

(3) 人事異動

主 用 技	事 務 師	松田俊世	県教育委員会総務課主事	54. 8. 1付
		与那嶺善盛	奥武山陸上競技場へ転出	55. 4. 1付
		賀数朝正	県教育委員会施設課技師補へ転出	55. 2. 1付

充 用 技	指 導 師	当山昌直	県立大平養護学校より出向	55. 4. 1付
		比嘉ミツ	県立図書館より	55. 4. 1付
		下地栄	新採用	55. 5. 15付

(4) 沖縄県立博物館協議会 (55. 6. 21現在)

委員名簿

学 識 経 験 者	真栄田 邦 男	那覇市識名667-4	34-5535	首里高等学校長
	外間 政 彰	那覇市松尾34	32-1955	那覇市立図書館長
学 校 教 育 関 係 者	福地 曠 昭	那覇市久茂地3-9-12 (沖縄教職員組合)	67-0161	沖縄県教職員組合副委員長
	池原 貞 雄	那覇市松川261	32-4902	琉球大学理学部教授
	安次富 長 昭	那覇市石嶺3-117-10	55-1653	琉球大学教育学部教授
	高宮 廣 偉	那覇市寒川1-23	34-3222	沖縄国際大学文学部教授
社 会 教 育 関 係 者	宮里 悦	那覇市大道14-10 (婦連)	32-5333	沖縄婦人連合会会長
	岸本 利 実	宜野湾市字野嵩135	098892-2556	元県議会文教厚生委員会 委員長
	松村 実	那覇市久米2-16-16	68-8249	沖縄タイムス社相談役
	池宮城 秀 意	那覇市大道354-1	32-1539	琉球新報会長

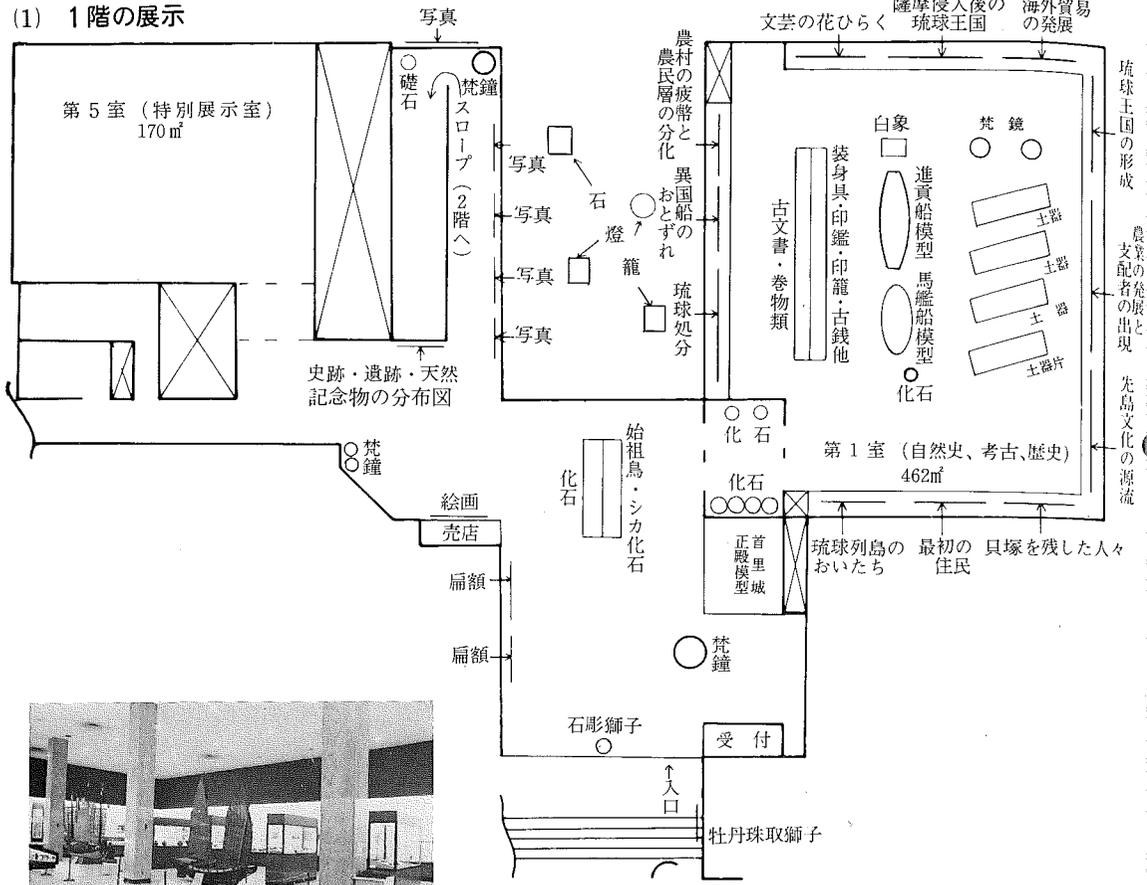
会 長 安次富 長 昭

副会長 真栄田 邦 男

事業

展示 (常設展示)

(1) 1階の展示



第 1 室

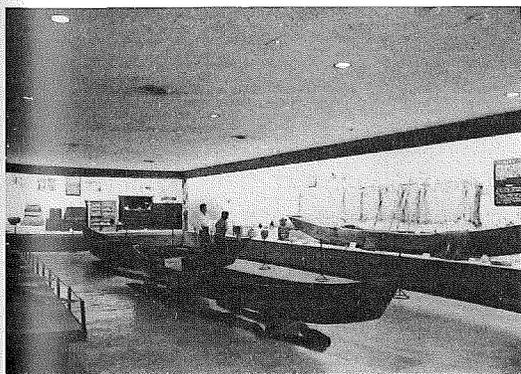
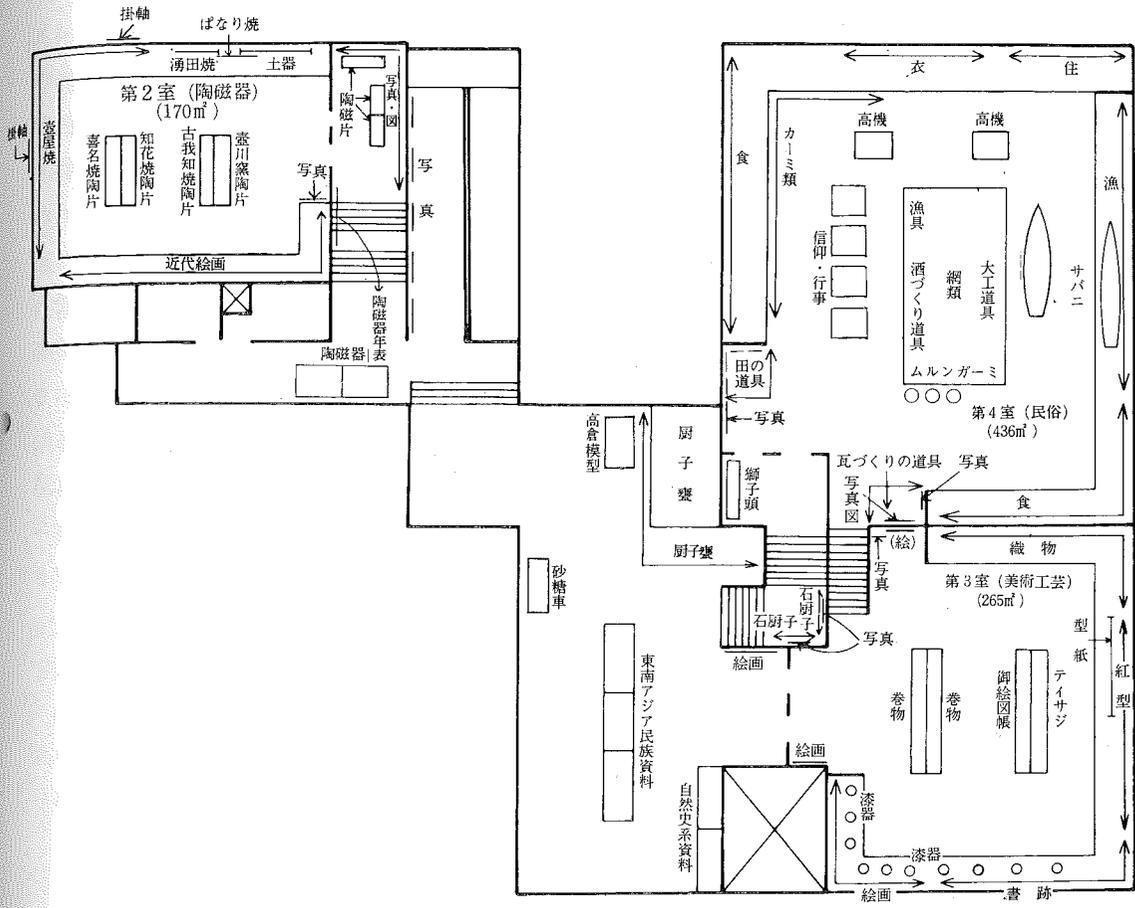


第 2 室



第 3 室

(2) 2階の展示 (常設展示)



第 4 室



第 5 室

琉球王国の形成
農業の発展と
支配者の出現
先島文化の源流

人々

1. 展 示

(1) 概 略

展示室は常設展示室4室、特別展示室1室からなり、内容は第1室が「歴史」（自然史・考古・歴史）、第2室「美術工芸Ⅰ」（陶磁器・近代絵画）、第3室「美術工芸Ⅱ」（書跡・絵画・漆器・染織等）、第4室「民俗」となっている。特別展示室は第5室になる。

第1室には新しく奄美諸島、種子島、および本土の縄文、弥生時代の土器、石器を加え、沖縄の先史時代のそれと比較ができるようにした。また、梵鐘や玉陵獅子レプリカが加わって歴史展示の内容も徐々に固まりつつある。

従来、第5室と呼んでいた陶磁器の展示室に近代沖縄の絵画をあわせて展示することになり、「美術工芸Ⅰ」の展示室とし、室名も第2室と改称した。これに伴い、第3室は「美術工芸Ⅱ」とした。これによって第1室から第4室までが常設展示室、第5室が特別展示室となり、導線もすべて左廻りとなった。

総合博物館として近代沖縄の絵画の展示は数年来の懸案であったが、今年度に至ってようやく実現の運びとなった。関係者の協力を得て南風原朝光・名渡山愛順・宮平清一・安谷屋正義・山元恵一等近代沖縄の絵画界を代表する作家の作品が展示できたのは幸いである。

2階ロビーに新しく砂糖車（複製）を展示した。

また、第1室「歴史」の導入ともなる1階ロビーに数的には少ないながらも初めて動物資料を展示したのも特筆すべきである。現段階では自然・人文の総合博物館を目指しているが、出発が美術工芸中心の博物館であったため、自然史系資料の収集・展示は緒についたばかりであ

る。今回の動物資料の展示を契機として自然史系資料の展示には、なおいっそう力を注ぎたい。

当館主催の特別展は「新収蔵品展」（昭和54年5月11日～5月31日）、「沖縄の洞穴と洞穴生物展」（6月12日～7月1日）、「伊江島の先史時代展」（8月10日～8月30日、伊江村教育委員会と共催）、「南風原朝光・名渡山愛順遺作2人展」（11月20日～12月2日）、「日本の美—救世熱海美術館名品展」（昭和55年1月12日～2月3日、救世熱海美術館・琉球新報社と共催）である。「日本の美—救世熱海美術館名品展」は第1室、第2室、第3室の常設展示を撤収して開催、第5室で「沖縄県立博物館名品展」をあわせて催した。それ以外の特別展は第5室を使用した。「新収蔵品展」を除いてポスターと図録（またはパンフ）を出すことができたのも大きな進歩である。

特別展示室の利用申し込みも年々増加している。

常設展示室、特別展示室ともに壁面の汚れが目立ち、照明もよくないので、新年度で改修したい。

(2) 特別展

イ 新収藏品展

会期：昭和54年5月11日(金)～5月31日(木)

会場：特別展示室

昭和53年度に購入、寄贈、収集、寄託された資料を紹介する目的で開催した特別展である。

53年度は、購入 101点、寄贈 426点、収集12点、移管1点の合計 540点である。会類別に見ると、書跡 190点、民俗 131点、自然54点、陶磁器53点、音楽・芸能46点とほとんど各分野にわたっている。

今回の「新収藏品展」には、そのほとんど全点数を展示公開した。特筆すべき資料として次のものがあげられる。

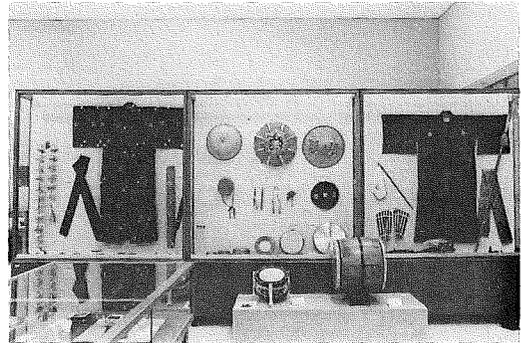
購入の部では、県指定文化財の「明孝宗皇帝より中山王尚真への勅書」、漆器盆、マンモス臼歯、ナウマン象臼歯、芸能関係資料、武器・武具類。

寄贈の部では、180点にもおよぶ「賞状・辞令書類」をはじめとして、「玉陵石獅子レプリ

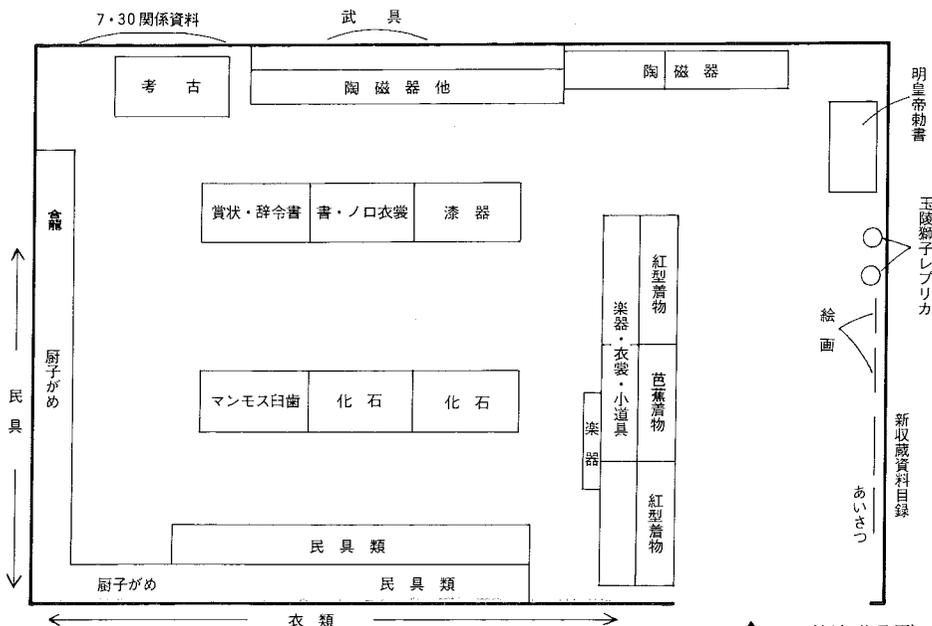
カ」2体、米国の篤志家から贈られた「壺屋焼雲龍貼付文壺」、「小橋川永昌作赤絵大壺」、「平良敏子作芭蕉布緋着物」、「紅型衣裳」、「山元恵一作『岬』」などである。

展示品の中には、厨子甕や民具があり、台湾関係の資料も含まれた。またおもしろいのは、交通世替わりの資料として、左折禁止、左よりの追越禁止等「7・30 関係資料」を展示した。音楽・芸能関係の資料は、楽器・衣裳・小道具類で、色彩が美しく観客の注目をあびた。

(担当：上江洲均学芸係長)



新収藏品展



▲ (新収藏品展)

□ 『沖繩の洞穴と洞穴生物』

会期：昭和54年6月12日(火)～7月1日(日)

会場：特別展示室(第5室)

本県には、地質の特異性もあって、洞穴が非常に多く発達している。県の洞穴実態調査で、現在わかっているだけで、およそ600ヶ所だが、その数はまだまだ増えるものと思われる。

人間は、古来から洞穴を住居として、貯蔵庫として、時には信仰の場として利用してきている。本県でも、洞穴はよく利用されており、最近まで風葬場としたり、入口を囲って墓としたり、また去った大戦の時には防空壕として大きい役割りを果たし、さらに洞穴内の水は重要な飲料水として利用されてきている。

洞内の鍾乳石などの二次生成物、洞穴堆積物、それに洞穴生物は、地質、古生物、考古そして生物学者の注目のまとなり、洞穴は、温度・湿度が一定に保たれた『地底の実験室』といわれるぐらい重要な所である。さらに洞穴が、どういう過程でできたかを考えることは、島の地史を考えるうえからも重要であり、洞穴が単なる『ほら穴』として扱われるべきものではないことがわかる。

しかし、県内の洞穴の現状は、チリ捨て場になり、尿尿が流し込まれ、さらに鍾乳石類が片っぱしから持ちだされるなど決して芳しいものとは言えない。

上述した洞穴の科学性を調査し、解明するのは我々の世代だけでは不可能であり、また解決できるものではない。こういう事からも、我々は次の世代に多くのものを自然のままに残してやることは当然の責務と考える。

洞穴が、なぜ大事であり、保護・保存しなければならないのかということについて、これまで積極的に啓蒙された例はなかった。それで、

今特別展は、この『洞穴』について少しでも多くの人々に理解していただくために企画したものである。

なお、特別展を実施するにあたり、県の洞穴実態調査のメンバーである次の方々にも多大な協力をいただいた。御芳名を記してお礼にかえさせていただきます。(担当：大城逸朗主任学芸員)

下謝名松栄(県立浦添高校教諭)

新垣義夫(普天満宮禰宜)

山内平三郎(玉泉洞観光株式会社)

日越国昭(教育庁文化課)

※総観覧者数 5,977人

——— 主な展示品目録 ———

1. 世界最大の洞穴マンモス洞平面図
2. 日本最大の洞穴安家洞測量図(1/500)
3. 沖縄県最大の洞穴玉泉洞測量図(1/500)
4. 測量器具一式
5. 探検器具一式
6. 鍾乳石標本
 - つらら石(切断面いろいろ)
 - 石筍
 - ケイブパール
 - ケイブボール
 - マイマイパール
 - 各種ケイブコーラル
 - ヘリクタイト
 - ヘリグマイト
 - カーテン
 - ストロー
7. 洞穴内の古生物標本
 - 人骨
 - シカ化石
 - イノシシ化石
8. 韓国産つらら石と石筍
9. ワイトモア洞(ニュージーランド)の石灰岩
10. マンモス洞の石膏
11. 洞穴生物標本
 - イシガキカグラコウモリ
 - ヤエヤマコキクガシラコウモリ
 - ヤエヤマユビナガコウモリ
 - オキナワコキクガシラコウモリ
 - リュウキュウユビナガコウモリ
 - クロイワトカゲモドキ
 - マダラトカゲモドキ

も多
たも
穴実
協力
させ
芸員)

- キムラグモ
- オキナワトタテグモ
- カンムリグモ
- ジャバラグモ
- オキナワマシラグモ
- ウデナガマシラグモ
- ヨリメグモ
- ヤイトムシ
- ウデナガサワダムシ
- ダイトウサワダムシ
- オヒキコシビロザトウムシ
- クメコシビロザトウムシ
- トゲアカザトウムシ
- ツブアシボソザトウムシ
- アシボソザトウムシ
- シマアカザトウムシ
- フタモンアカザトウムシ
- オキナワコアカザトウムシ
- イシカワザトウムシ

- リュウキュウヤハズヤスデ
- ヒモヤスデ
- クメジマヒモヤスデ
- ホラオビヤスデ

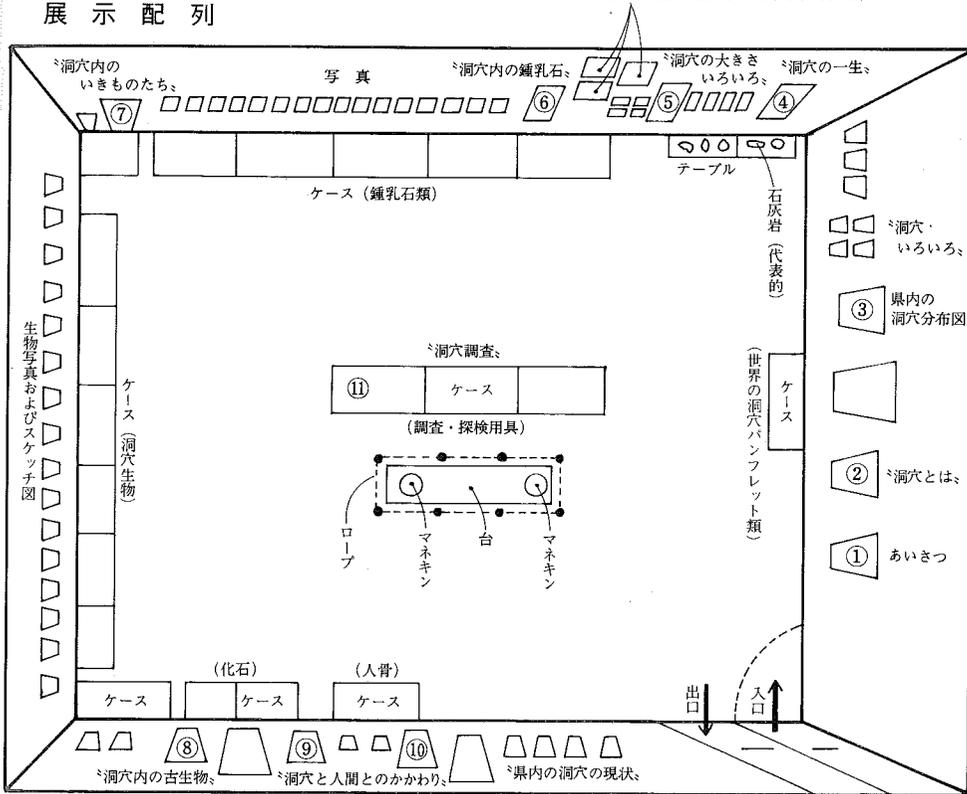
- 12. 県内の各種石灰岩標本
- 13. 世界の洞穴案内パンフレット類



展示場風景 (洞穴展)

展示配列

洞穴平面図 (世界1、日本1、沖縄1)



ハ 伊江島の先史時代展

会期：昭和54年 8月10日～8月30日

会場：特別展示室（第5室）

主催：当館、伊江村教育委員会

近年諸開発工事の増加に伴って、貝塚などの遺跡の発掘が多くなり、考古学上多くの成果をあげている。

反面このような発掘ブームのかげに破壊され消滅する遺跡も多く、問題となっている。

また発掘調査によって得られた出土遺物も公開されずに倉庫などに収納されたままになっているのが現状である。

このことは伊江島においても例外ではない、特に近年農地改良事業等に伴って緊急発掘が多発し、考古学的な成果も大きい反面破壊される遺跡も多く問題となっている。

この特別展は、これらの発掘調査の成果をとおして伊江島の先史時代を概観し、より多くの人々に最近の考古学的成果を紹介するとともに緊急発掘により進行している遺跡の破壊状況についても図示した。

展 示 品

骨製品数点（ゴヘズ洞穴遺跡出土）

鹿化石骨拾数点（ゴヘズ洞穴遺跡出土）

浜崎貝塚出土の前期土器数点

ナガラ原西貝塚出土の後期カメ型土器数点・骨製品数十点・貝札3点・石斧数十点・貝殻数百点
具志原貝塚

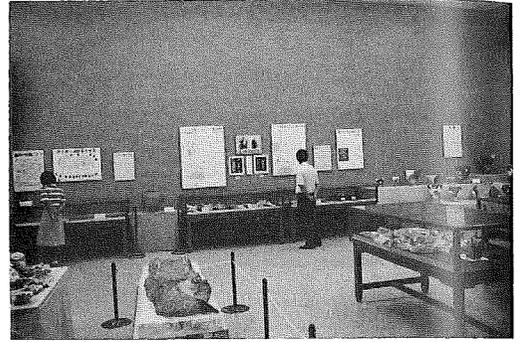
弥生式土器片数点・貝札1点

佐賀県姫方遺跡出土のカメ型弥生式土器

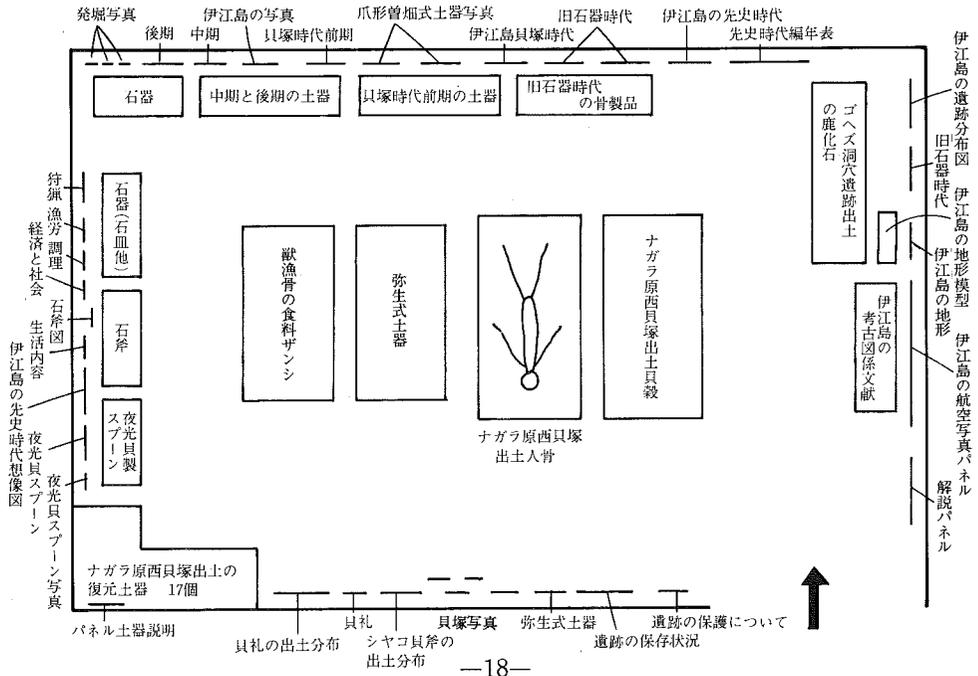
その他土器拾数点

伊江島航空写真・説明用及写真パネル30点

（担当：知念勇学芸員）



会 場 風 景



二 南風原朝光 遺作二人展
名渡山愛順

会期：昭和54年11月20日～12月2日

会場：特別展示室（第5室）

現在、沖縄県内における絵画の創作活動は盛んであり、個展、グループ展等がひんぱんに開かれている。この時期に近代沖縄画壇の先駆者であり、今日の隆盛の基礎を築いた南風原朝光（1904～1962）、名渡山愛順（1906～1971）の代表作を一堂に集めて展覧することは、ただ単に両画伯の偉業を偲ぶだけでなく、後進へ大いに啓発を与えることを目的として遺作二人展を企画した。

出品作品は大きいもので100号から小さいものは4号までの58点（南風原朝光35点、名渡山愛順23点）の代表作を選んで展示した。

作品の傾向として南風原の風景、静物画に対して、名渡山の琉舞や琉装の婦人像を中心に对象的に組合せた。

両画伯の作品はともに明るい色彩をうまく使いこなしていて、沖縄のよさをいかに発輝している。

なお、同展開催にあたってはご遺族をはじめ、準備委員の方々の絶大なる協力を得たことに對し厚くお礼を申しあげたい。

（担当：宮城篤正教育普及係長）

南風原朝光 主なる画歴

1. 1931年 白日会賞受賞
2. 1938年 藤田嗣治他2人を沖縄へ案内する
3. 1942年 第一回台日文化賞受賞
4. 1943年 国画会賞受賞
5. 1948年 国画会会員となる

名渡山愛順 主なる画歴

1. 1930年 那覇で「泰西名画模写展」(個展)を開らく
2. 1941年 光風会展で三星賞受賞
3. 1940年 第三回文部省美術展へ「琉球古典調」出品
4. 1946年 光風会会員となる
5. 1966年 第52回光風会展へ「乙樽の囃」出品



会場風景

出 品 一 覧

南風原朝光

名渡山愛順

No.	作 品 名	寸法(単位cm)	制作年	No.	作 品 名	寸法(単位cm)	制作年
1	魚 の 静 物	90.5×60.0	1943年	1	郷 愁	100.0×80.3	1946年
2	夕 焼	117.0×90.0	1960年	2	枕ならべたる夢のつれなさや	145.5×112.1	1967年
3	泊 港 風 景	72.1×45.2	1953年	3	紅 型 を 着 る	65.1×53.0	1967年
4	長 崎	45.0×38.0	1957年	4	久 住 秋 景	51.0×40.5	1945年
5	野 菜 と 果 物	90.5×65.5	1940年	5	沖 繩 の 女	145.5×112.1	1958年
6	銀 座 裏	40.0×32.0	1957年	6	白地紅型を着る	53.0×45.5	1946年
7	奈 良 風 景	65.3×53.0	1957年	7	座 像 ・ 緑 の 支 那 服	130.3×97.0	1961年
8	奥 入 瀬	53.0×45.6	1960年	8	婦 人 像	45.5×37.9	1945年
9	蛾	126.0×95.0	1959年	9	髪	65.1×53.0	1967年
10	サモアールのある静物	116.8×91.0	1958年	10	青 藍 緋 の 女	130.3×97.0	1959年
11	赤 城	65.0×52.7	1957年	11	裸婦(ワシントン美術学校にて)	60.5×48.7	1951年
12	窓 際 の 静 物	100.0×80.6	1954年	12	ア メ リ カ 風 景	40.9×31.8	1951年
13	魚 の 静 物	90.0×70.3	1942年	13	乙 樽 の 図	162.2×130.3	1966年
14	静 物	116.4×91.1	1958年	14	琉 球 の 女	145.5×112.1	1969年
15	石 神 井	53.3×45.2	1949年	15	伊 野 波 節 を 踊 る	162.2×130.3	1968年
16	石 神 井	41.3×31.8	1949年	16	憩	65.1×53.0	1965年
17	石 神 井 の 秋	60.5×49.6	1950年	17	二 人 の 女	162.2×130.3	1962年
18	戦 火 の 跡 の 泊 港	78.0×44.2	1953年	18	沖 繩 情 趣	116.8×91.0	1953年
19	燭	33.0×23.8	1953年	19	糸 満 乙 女	72.2×60.6	1954年
20	赤 城	53.0×45.5	1957年	20	裸 婦	116.8×91.0	1957年
21	赤 城	45.5×37.9	1957年	21	琉 球 の 女	130.3×97.0	1957年
22	干 魚	40.7×31.7	1957年	22	ワ シ ン ト ン	40.9×31.8	1951年
23	魚	53.0×45.0	1957年	23	紅 型 を 被 る	65.1×53.0	1955年
24	富 士	45.0×37.5	1957年	24	若 夏	116.8×91.0	1956年
25	長 崎	60.3×40.6	1957年	25	く ち な し の 花	60.6×50.0	1953年
26	長 崎	60.7×50.2	1957年	26	雪 の 祖 母 山 を 望 む	45.5×37.9	1946年
27	長 崎	21.1×27.0	1957年	27	横 顔	44.0×27.4	1945年
28	奥 入 瀬 溪 流	64.9×53.1	1959年	28	秋 の 久 住	33.4×24.2	1946年
29	蛾	90.5×60.6	1959年				
30	泉	130.0×97.0	1961年				

ホ 「日本の美—救世熱海美術館名品展」

主催：当館・救世熱海美術館・琉球新報社

会期：昭和55年1月12日(土)～2月3日(日)

会場：第1室、第2室、第3室

併催：沖縄県立博物館名品展（第5室）

救世熱海美術館は、昭和32年に創立者岡田茂吉氏のコレクションを公開するため静岡県熱海市に開設されたもので、日本、中国をはじめとする東洋の美術品2千余点を収蔵している。今回の特別展においてはその中から国宝1点、重要文化財9点、重要美術品17点を含む百余点の作品が選ばれ、展示された。

展示は絵画、書跡、彫刻、陶磁器、漆器、金工で構成され、時代的にも縄文式土器から近代日本画まで幅広く、いわば日本美術史の流れが概観できる展示となった。会場は3つに分かれ、第1会場では屏風絵、近代日本画、浮世絵、第2会場では土器、埴輪、陶磁器、漆器、金工、第3会場では絵画（中国を含む）、書跡、仏像彫刻、そして国宝の野々村仁清作「色絵藤花文茶壺」が展示された。

会期中は無休としたうえ、琉球新報社の宣伝効果も手伝って、平日は学校団体、土・日・祝祭日は家族連れでにぎわった。第1会場では屏風絵や竹内栖鳳の「翠竹野雀図」、上村松園の「虫の音図」、葛飾北斎の「富嶽三十六景」、安藤広重の「東海道五十三次」などが人目を引き、第2会場では縄文式土器や埴輪が子どもたちの人気をさらった。また第3会場では「藤壺」や康俊作「聖徳太子立像」の前に人垣ができた。美術愛好家も多く訪れ、2度、3度と通った人もいる。

熱海美術館の名品展とあわせて催した「沖縄

県立博物館名品展」では絵画、書跡、彫刻、三味線、陶磁器、染織など重要文化財、県指定文化財を含む当館の優品百余点を展示した。見学者からは日本と沖縄の美術工芸を比較して見ることができるとして好評で、なかには沖縄の美術工芸の水準の高さに感動したという人もいた。

開幕初日の1月12日には元京都国立博物館長で文化財保護審議委員の松下降章先生による記念講演会を開催した。講演は「日本美術の特性—救世熱海美術館の名品にふれて」と題して約1時間30分、スライドを使いながら平易でしかも内容の濃いもので聴衆に感銘を与えた。翌1月13日から講堂では毎日午後2時から4時まで映写会を開催した。日本、沖縄の美術工芸のフィルムの他に「ルーブル美術館」、「博物館」など展示会と直接・間接につながるフィルム約40本を順次上映した。映写会も好評で、映画を見るために博物館に通う人もいたほどである。

さらに2階ロビーでは会期中華道山月流によるいけばな展が開催され、また前庭では茶道裏千家淡交会沖縄支部、表千家同門会沖縄県支部による協賛茶席が土・日・祝祭日に設けられた。

23日間の会期中に訪れた観客は76,373人。本土から遠く海を隔てているために、日本の優れた美術品を眼のあたりに見る機会が少ないこと、県民がこの種の展示会を切望していることがうかがえる数字である。（担当：渡名喜明学芸員）



日本の美—救世熱海美術館名品展

ホ 「日本の美一救世熱海美術館名品展」

主催：当館・救世熱海美術館・琉球新報社

会期：昭和55年1月12日(土)～2月3日(日)

会場：第1室、第2室、第3室

併催：沖縄県立博物館名品展（第5室）

救世熱海美術館は、昭和32年に創立者岡田茂吉氏のコレクションを公開するため静岡県熱海市に開設されたもので、日本、中国をはじめとする東洋の美術品2千余点を収蔵している。今回の特別展においてはその中から国宝1点、重要文化財9点、重要美術品17点を含む百余点の作品が選ばれ、展示された。

展示は絵画、書跡、彫刻、陶磁器、漆器、金工で構成され、時代的にも縄文式土器から近代日本画まで幅広く、いわば日本美術史の流れが概観できる展示となった。会場は3つに分かれ、第1会場で屏風絵、近代日本画、浮世絵、第2会場では土器、埴輪、陶磁器、漆器、金工、第3会場で絵画（中国を含む）、書跡、仏像彫刻、そして国宝の野々村仁清作「色絵藤花文茶壺」が展示された。

会期中は無休としたうえ、琉球新報社の宣伝効果も手伝って、平日は学校団体、土・日・祝祭日は家族連れでにぎわった。第1会場では屏風絵や竹内栖鳳の「翠竹野雀図」、上村松園の「虫の音図」、葛飾北斎の「富嶽三十六景」、安藤広重の「東海道五十三次」などが人目を引き、第2会場では縄文式土器や埴輪が子どもたちの人気をさらった。また第3会場では「藤壺」や康俊作「聖徳太子立像」の前に人垣ができた。美術愛好家も多く訪れ、2度、3度と通った人もいた。

熱海美術館の名品展とあわせて催した「沖縄

県立博物館名品展」では絵画、書跡、彫刻、三味線、陶磁器、染織など重要文化財、県指定文化財を含む当館の優品百余点を展示した。見学者からは日本と沖縄の美術工芸を比較して見ることができるとして好評で、なかには沖縄の美術工芸の水準の高さに感動したという人もいた。

開幕初日の1月12日には元京都国立博物館長で文化財保護審議委員の松下降章先生による記念講演会を開催した。講演は「日本美術の特性一救世熱海美術館の名品にふれて」と題して約1時間30分、スライドを使いながら平易でしかも内容の濃いもので聴衆に感銘を与えた。翌1月13日から講堂では毎日午後2時から4時まで映写会を開催した。日本、沖縄の美術工芸のフィルム他に「ルーブル美術館」、「博物館」など展示会と直接・間接につながるフィルム約40本を順次上映した。映写会も好評で、映画を見るために博物館に通う人もいたほどである。

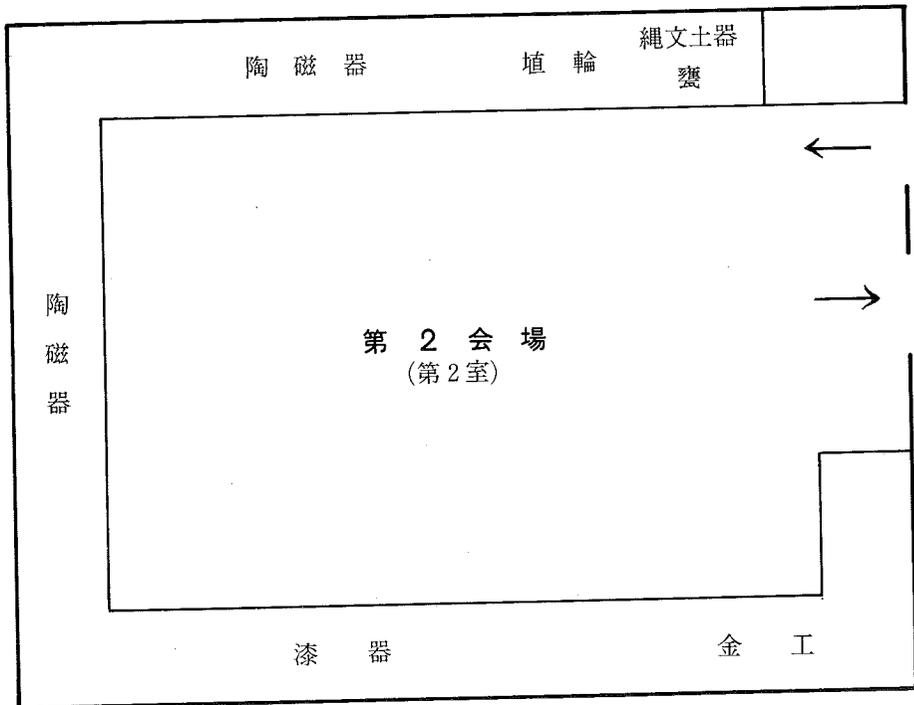
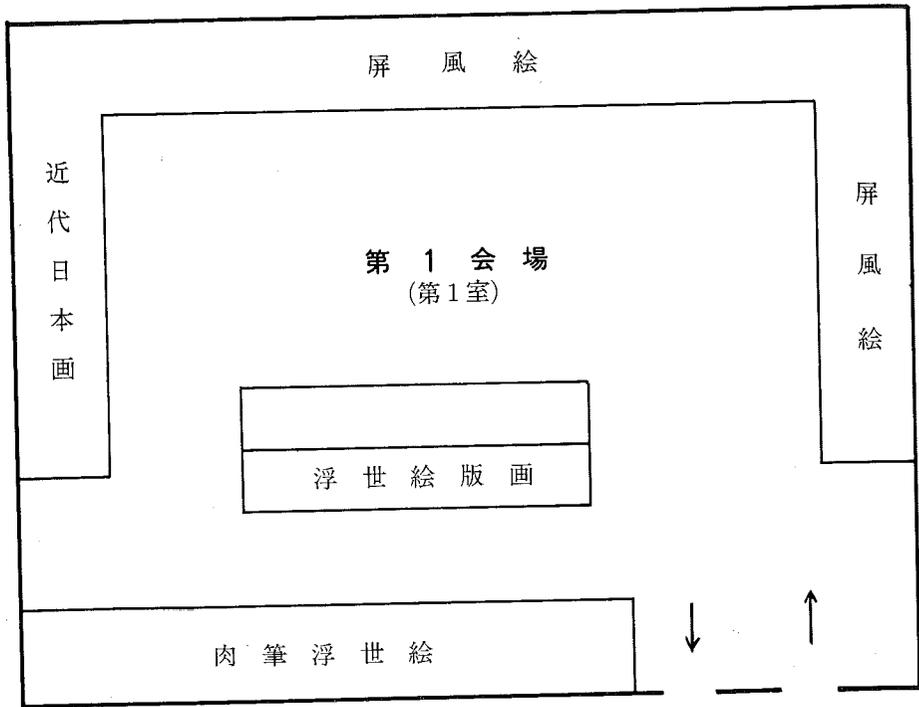
さらに2階ロビーでは会期中華道山月流によるいけばな展が開催され、また前庭では茶道裏千家淡交会沖縄支部、表千家同門会沖縄県支部による協賛茶席が土・日・祝祭日に設けられた。

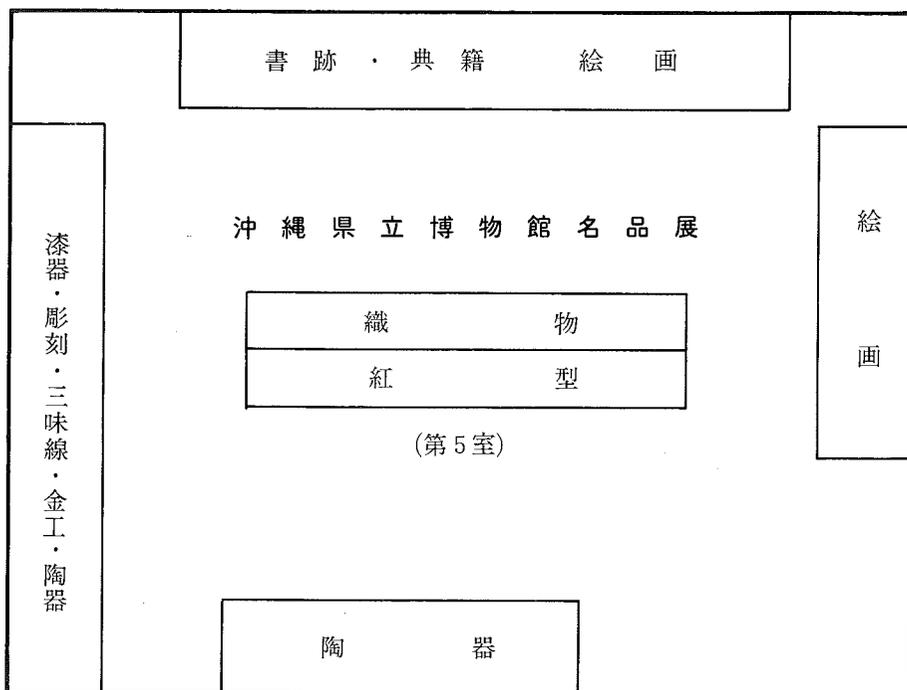
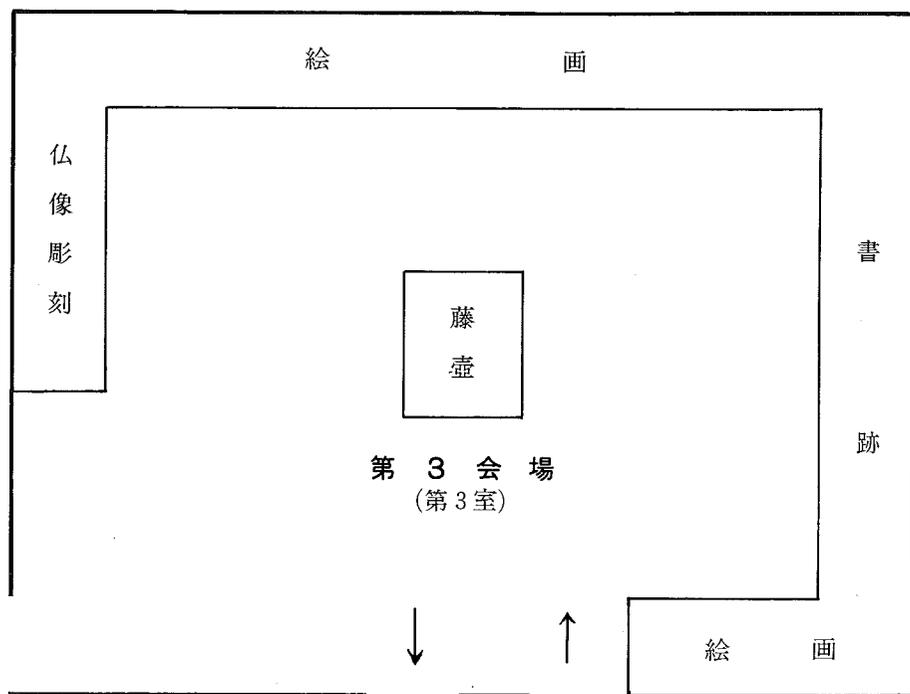
23日間の会期中に訪れた観客は76,373人。本土から遠く海を隔てているために、日本の優れた美術品を眼のあたりに見る機会が少ないこと、県民がこの種の展示会を切望していることがうかがえる数字である。（担当：渡名喜明学芸員）



日本の美一救世熱海美術館名品展

日本の美—救世熱海美術館名品展展示配置図





第5室（特別展示室）展示一覧

期 間	展 示 会 名	主 催
昭和54年		
4. 10(火)～4. 15(日)	琉球大学美術工芸科卒業制作展	同 科
4. 19(木)～4. 22(日)	島ひろ子タピストリー展	島 ひろ子
5. 11(金)～5. 31(木)	昭和53年度新収蔵品展	当 館
6. 12(火)～7. 1(日)	沖縄の洞穴と洞穴生物展	”
7. 5(木)～7. 15(日)	新匠工芸会沖縄展	同 会
7. 18(水)～7. 29(日)	安谷屋正義回顧展	同展実行委員会
8. 1(水)～8. 5(日)	山城耕雲遺作展	同展実行委員会
8. 10(金)～8. 30(木)	伊江島の先史時代展	当館・伊江村教育委員会
10. 2(火)～10. 19(金)	ヤチムン会10周年記念「沖縄の古窯」展	やちむん会
10. 24(水)～11. 4(日)	県指定美術工芸展	沖縄県教育委員会
11. 7(水)～11. 11(日)	県芸術祭工芸展	”
11. 14(水)～11. 18(日)	県芸術祭美術展	”
11. 20(火)～12. 2(日)	南風原朝光・名渡山愛順遺作2人展	当 館
昭和55年		
1. 12(土)～2. 3(日)	日本の美一救世熱海美術館名品展 沖縄県立博物館名品展	当館・救世熱海美術 館・琉球新報社
2. 27(水)～3. 2(日)	首里高校染織デザイン科卒業作品展	同 校
3. 18(火)～3. 21(金)	琉球大学美術工芸科卒業制作展	同 科
3. 29(土)～3. 30(日)	琉球大学書道倶楽部卒業書展	同 クラブ

2. 調査研究活動

本年度の調査研究活動は、隣県の奄美諸島から沖縄の各離島の島々と、例年のごとく広範囲にわたっている。本県の場合は、多くの離島を抱えているために、調査研究について必然的に生じてくるのは調査費の問題である。幸い、これを幾分なりともカバーしてくれたのは、市町村やその他の機関による依頼出張であり、担当職員は、この機会に資料収集を行い、資料目録をつくっているのが現状である。

その他、今回は、3～4年来計画していた総合調査を粟国島で実施することができた。これは、学芸員および館外の研究者にも依頼し、一つの地域をいろんな分野から総合的に調査し、記録に残し、その結果を展示会・講演会を通じて還元していくことを目的に企てられたものである。

今回のこの総合調査は、粟国村役所および村教育委員会の強力なバックアップのもとに無事に完了し、その結果は『博物館総合調査報告書Ⅰ—粟国島（あぐにじま）—』の報告書にまとめられた。

次に、本年度内（昭和54年4月～昭和55年3月）の各担当職員の調査研究を簡単にのべる。

(1) 調査研究活動の状況

名嘉正八郎（副館長）

3月：総合調査（粟国島14～17日）

上江洲 均（学芸係長）

7月：民俗調査と民具収集（与那国町、9～12日）

〃：民俗調査（黒島、西表島、依頼、13～16日）

〃：6月ウマチー調査（久米島、依頼、17～19日）

10月：国内資料調査委員会（大阪・国立民族学

博物館、依頼、11～13日）

〃：救世熱海美術館名品展調査（熊本、25～27日）

〃：資料の協同調査利用（ネットワーク）に関する研究（東京・国立歴史民俗博物館、依頼、27～11月1日）

2月：第1回移動博物館（久米島、26～29日）

〃：国内資料協同利用に関する研究と九学会検討会（大阪・東京、依頼、13～19日）

3月：総合調査（粟国島、14～17日）

宮城篤正（教育普及係長）

6月：奄美大島、徳之島、沖永良部島の陶磁器調査（県教育委員会、依頼、1～5日）

〃：久米島の陶磁器調査（〃、〃、11～13日）

〃：八重山の陶磁器調査（〃、〃、25～28日）

〃：沖縄の伝統工芸（案内説明）（朝日新聞、依頼、29～30日）

7月：宮古島の陶磁器調査（県教育委員会、依頼、3～5日）

9月：那覇市内の陶磁器調査（県教育委員会、依頼、18日）

12月：北部の陶磁器調査（〃、〃、13～14日）

〃：中部の陶磁器調査（〃、〃、17、20日）

〃：作場焼の調査（大宜味村教育委員会、依頼、18日）

1月：栃木県益子の陶磁器調査（県民文化課、依頼、21～23日）

2月：第1回移動博物館（久米島、29～3月2日）

3月：総合調査（粟国島、14～17日）

大城逸朗（主任学芸員）

7月：与那国島、西表島、石垣島の洞穴調査（教育庁文化課、依頼、24～8月7日）

8月：宮古島の洞穴調査（〃、〃、21～27日）

12月：伊是名城付近の地質調査（県自然保護課、

- 依頼、4～6日)
- 2月：資料収集および調査（多良間島、18～22日）
- 3月：総合調査（粟国島、14～17日）
- 渡名喜 明**（学芸員）
- 7月：上城発掘調査（佐敷村、依頼、14日）
- 知念 勇**（学芸員）
- 5月：鹿児島市内考古学調査（依頼、10～13日）
- 8月：仲宗根貝塚発掘調査（教育庁文化課、依頼、8～26日）
- 10月：徳之島の遺跡調査（11～14日）
- 2月：第1回移動博物館（久米島、29～3月2日）
- 3月：総合調査（粟国島、14～17日）

(2) 講演・研修活動および大会 参加など

外間正幸（館長）

- 九博協理事会ならびに総会に出席（長崎、7月16日～18日）
- 沖博協大会に出席（八重山、7月24～27日）
- 『沖縄の文化について』九州地区公立小学校婦人管理職研究協議会大会で講演（8月9日）
- 『沖縄の歴史と文化について』壺屋陶器組合陶工研修会で講演（9月7日）
- 『沖縄の歴史と文化について』沖縄電機事業関係会社々長会で講演（10月19日）
- 『琉球の石造美術・建造物について』ロータリークラブ那覇東の会で卓話（11月1日）
- 『沖縄の地域文化の特性について』昭和54年度県社会教育主事研修会で講演（11月21日）

名嘉正八郎（副館長）

- 『沖縄の歴史と文化』人事委員会沖縄

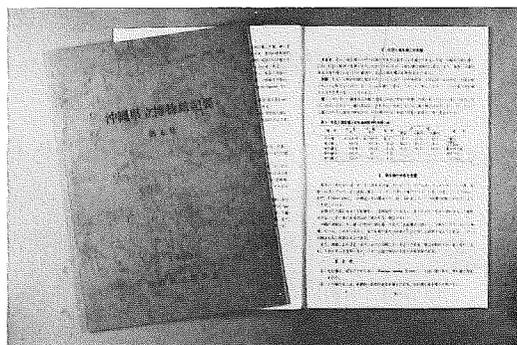
事務所中級研修会で講義（5月22日）

- 『 』 沖縄総合事務局初級研修会で講義（5月24日）
 - 『 』 人事委員会沖縄事務所初級研修会で講義（6月22日）
 - 『 』 沖縄総合事務局中級研修会で講義（10月23日）
 - 『 』 “ ” 中堅管理者研修会で講義（12月11日）
 - 『沖縄のグスク（城）』第1回移動博物館（於久米島両村）で講演（55年2月29日）
 - 『沖縄のグスク（城）』今帰仁村教育委員会で講演（55年3月26日）
- 上江洲 均**（学芸係長）

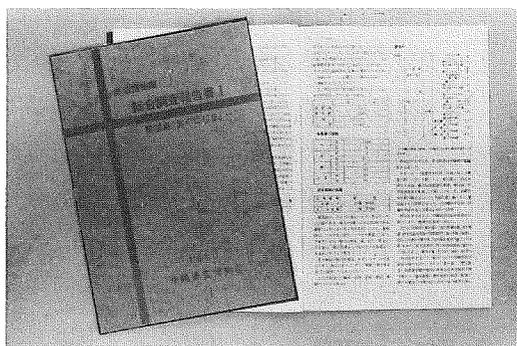
- 沖博協総会研修会に出席（八重山、7月24日～27日）
 - 日本民具学会に出席（佐渡、自費、9月20～26日）
 - 『沖縄の民具』石川市（文化財強週間）で講演（6月6日）
 - 国内名所めぐり研修会へ出席（福井県、11月9日～13日）
- 宮城篤正**（教育普及係長）
- 『沖縄の絵画』那覇地区中学校美術研究会で講演（7月13日）
 - 沖博協総会研修会に出席（八重山、7月25～27日）
 - 『沖縄の古窯』壺屋陶器事業組合で講演（9月3日）
 - 『沖縄の古窯を語る』第67回博物館文化講座でパネルディスカッション（10月6日）
 - 『沖縄の陶器』裏千家青年部で講演（10月9日）

- 『〃』 南風原高校で講演 (12月19日)
- 『〃』 県文化財修理者技術協会で講演 (55年2月22日)
大城逸朗 (主任学芸員)
- 九博協学芸員・庶務研修会に出席および他県博物館視察 (鹿児島市、佐賀市、9月5～10日)
- 『久米島のおいたち』 第1回移動博物館 (於久米島両村) で講演 (55年2月28～29日)
渡名喜 明 (学芸員)
- 沖博協総会研修会に出席 (八重山、7月25～27日)
- 九博協学芸員・庶務研修会に出席および他県博物館視察 (鹿児島市、佐賀市、9月5～10日)
- 救世熱海美術館視察研修 (熱海市、秋田市、10月15～19日)
- 特別展資料搬出立合いおよび資料調査 (熱海市、12月22日～25日)
知念 勇 (学芸員)
- 貿易陶磁の研究会に出席 (東京、12月)
- 沖史協研修会に出席 (那覇市、55年1月10日)
- 『グスクと島尻の文化』 島尻教育事務所研修会で講演 (55年3月)
- (3) **著作・論文その他**
名嘉正八郎 (副館長)
- 『東アジアから見た沖縄の城 (グスク)』 歴史読本、7月号所収、1979年
- 『校本東汀随筆』 喜舎場朝賢著、校訂解説名嘉正八郎・我部政男、1980年
- 『粟国村略史』 博物館総合調査報告書 I—粟国島一、1～8、1980年
上江洲 均 (学芸係長)
- 『台湾アミ族の収穫祭見学記』 沖縄民俗研究 2号、1979年
- 『粟国島のトゥージ』 博物館総合調査報告書 I—粟国島一、21～28、1980年
- 『久米島下地原洞収集の鉄先について』 沖縄県立博物館紀要、第6号、9～14、1980年
- 『沖縄の民具』 教育沖縄
宮城篤正 (教育普及係長)
- 『沖縄の古武道』 季刊沖縄アルマナック I、112～116、1980年
- 『金城次郎人と作品』 陶芸界の巨匠—金城次郎作陶顕彰展図録、130～137、1979年
- 『金城次郎年譜』 “ ”、138～143、1979年
- 『図録沖縄の古窯』 共同執筆、やちむん会、1979年
- 『粟国島の陶磁器』 博物館総合調査報告書 I—粟国島一、29～38、1980年
- 『作場焼調査抄報』 沖縄県立博物館紀要、第6号、21～32、1980年
- 『沖縄の古窯』 県内漆器・陶器遺品調査報告書、県教育委員会、1980年
(制作)
- 『水字貝の詩』 (F100)油絵、第45回旺玄展出品、東京美術館、会期5月25日～6月5日
- 『水字貝の詩』(F100)油絵、第13回沖縄旺玄展出品、沖縄タイムス第2ホール、会期11月1～4日、
大城逸朗 (主任学芸員)
- 『Holocene Raised Coral Reef on Senkaku Islands —An Active Remnant Arc.』 Proceedings of

- the Japan Academy , Vol, 55, Ser. B, No.7, 335 -340, 1979, Kenji, KONISHI, Takeo TANAKA と共著、
- 『粟国島の地形と地質』 博物館総合調査報告書Ⅰ—粟国島—、39—50 1980年
 - 『宮古諸島・八重山諸島の洞穴実態調査』 沖縄県洞穴実態調査報告Ⅲ、県教育委員会、1—100、1980年、山内平三郎、新垣義夫と共著、
 - 『琉球石灰岩から発見されたアサヒガニ化石について』 沖縄県立博物館紀要、第6、1—8、1980年、諸喜田茂充と共著、



沖縄県立博物館紀要 第6号



県立博物館総合調査報告書Ⅰ

- 渡名喜 明 (学芸員)
- 『紅型の技法—城間栄喜氏からの聞き書きをもとにして』 紅型—伝統技術保存

会作品集 214—229、1979年

- 『久米島喜久村家所蔵の紅型幕について』 沖縄県立博物館紀要、第6号、1—12、1980年
- 知念 勇 (学芸員)
- 『与論島東南部における先史・原史時代遺跡の調査』 国頭・与論の調査報告書、沖縄国際大学南島文化研究所、共著、
- 『1978年の考古学界の動向—南西諸島』 考古学ジャーナル8月号、1979年
- 『本部町考古学関係資料解題』 本部町史、1979年
- 『仲宗根貝塚発掘調査報告』 県教育委員会、1980年
- 『粟国島の考古』 博物館総合調査報告Ⅰ—粟国島—、9—20、1980年
- 『勝連城出土の元染付片について(資料紹介)』 沖縄県立博物館紀要、第6号、15—20、1980年

3. 資料収集活動

昭和54年度の収蔵点数は、598点であった。そのうち購入品では、購入費の増額もあり、「進貢船の図」、「沖縄の女」、「鄭嘉訓書巻物」、「赤絵ブドウ文酒注」、「松竹梅鶴亀文様紅型舞台幕」「潤塗葡萄粟鼠螺鈿箔絵料紙箱及び硯箱」「紫水晶」などが光っている。

寄贈の部では、井伊文子氏寄贈の「龍瑞雲青海立波文唐織衣裳」「朱漆鳳凰瑞雲箔絵小櫃」等十数点にも及ぶ貴重な資料をはじめとして、レベルの高い資料が寄せられた。詳しくは、「新収蔵資料内容」に見る通りであるが、主なるものは次の通りである。

- 山田真山筆「達磨図」
- 名渡山愛順筆「水色地がすりを着る」「玉陵」
- 広重「坊ノ津」
- 義村朝義書及び画(44点)
- 鄭嘉訓巻物

○ロートン織布地。 ○バジルホール大琉球島航海記(1818年初版本)他。○戦前戦中資料等(88点)、○古銭(52点)、○湛水流工工四、○厨子甕(52点)、○玩具(39点)、○マンモス臼歯他(9点)、○堇青石仮晶他(23点)、○モノチス化石他(26点)。

これらの全資料は、去る5月の特別展「新収蔵品展」において一般公開した。54年度の収蔵資料はこれまでにない豪華さで、展示会も好評を博した。

4. 資料整理

戦後の残欠資料の整理は、52年度をもって一応の終了を見たのであるが、その後の台帳整理、カード記載等の仕事は現在も続けられている。

従来、「購入」「寄贈」「収集」「返還」の4項目で、その中でさらに陶器、漆器、織物、書画、木彫、石彫、金属、雑の8項目に分類していた。

それを昭和43年ごろから、4項目の台帳を廃止し、絵画、書跡、彫刻、建築、陶磁器、染織、漆器、金工、歴史、貨幣、楽器・芸能、装身具、民俗、考古、武器・武具、戦争資料、自然の17項目とした。

しかし、この分類も不都合な点があり、数年前からそのための研究会を持ち検討をすすめている。つまり「自然」「理工」「歴史」「美術工芸」「考古」「民俗」「芸能」の7つの柱を設け、おのおの細分類することを考え、作業をすすめている。

5. 資料保存・修理

(1) 燻蒸

本年度の燻蒸は、例年通り2回行った。期日は、9月11日(火)―13日(木)と、2回目は、特別展終了後の2月7日(木)―9日(土)に実施した。燻蒸は、地下収蔵庫、第1収蔵庫、漆器収蔵庫それに1階ロビー内に展示してある首里城模型、偏額等についてメチルプロマイド¹¹処理を行い、各展示室をはじめその他の場所についてはスミチオン煙霧による防虫駆除を行った。

2回目の燻蒸の時に、地下収蔵庫内で天井に固定設置した薬品噴出のホースから液が飛び散り、壁や資料棚それに石彫の一部を汚染した。この件については、施行会社に対して薬品噴出方法を改良すると同時に、今後絶対に汚染事故がないよう嚴重に申し入れをした。

なお、今回は、初の試みとして2月25日(日)にゴキブリ処理を実施した。これまで燻蒸が手薄になっていたホールやホールのステージ裏それに天井裏などを中心にして行い、その他特別展示室、1～2階のロビーとトイレ、事務室について実施した。各所の角々には、クロルピルホスメチル乳剤、天井裏にはデブテレックス食毒剤を散布し、同時にペルメトリン燻煙剤処理を行った。

(2) 博物館資料の修理

昭和54年度の資料修理状況は次の通りである。

○絵画：宮平清一作『樹間』（油絵）、『学習院大学内』（油絵）

※保全および展示のため額縁をつけた。

○陶磁器：荒焼土瓶他9点

※口縁部、注口、把手などの欠損部分を漆で修理した。

○民俗：砂糖車の復原、神扇の修理

6. 教育普及活動

昭和54年度の博物館文化講座は4月の第62回「沖縄の民話」（沖縄国際大学教授遠藤庄司）を皮切りに毎月1回の割合いで実施した。（詳しくは次の(1)博物館文化講座参照のこと。）

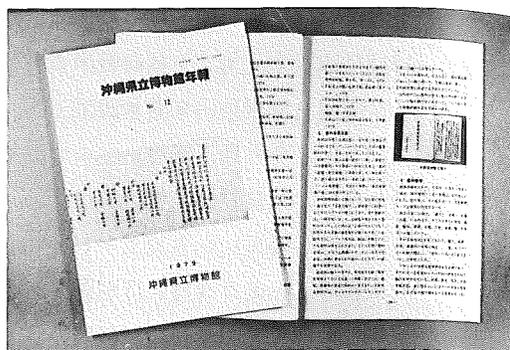
この他、特別文化講座として4月14日(土)「ソ連モンゴル共同発掘調査について」（ソ連科学アカデミー古生物学研究所移動博物館館長、N. N. クラメンコ）と「白亜紀の生物界について」（ソ連科学アカデミー古生物学研究所移動博物館副館長、A. G. ポノマレンコ）の講演会を開催した。

第1回移動博物館が久米島の具志川村と仲里村で開催された。この移動博物館は①展示会（戦前の沖縄写真展、沖縄の天然記念物の動物写真展）、②文化講座、③映写会の三本柱を内容として実施された。〔詳しくは(2)移動博物館（久米島）を参照のこと。〕

昭和54年度4月から教育普及解説員（1人）が採用され、団体、グループ等に展示解説を行なっている。その他博物館資料に関する質問を受けたり、アンケート調査を行ったり、来客に対する全般的な情報サービスにもつとめている。

解説員は一階ロビーの案内コーナーに常時待機して来館者の質問、要望等に対応している。また、県内外から資料の利用、諸種の問い合わせ等も多く、その都度各担当学芸員が電話、郵便、面接などで応答している。

なお、案内コーナーの一隅には友の会の売店〔博物館友の会は今年（昭和55年）1月に結成された。〕があり、博物館関係の図書、絵はがき、写真フィルム、研究会の各機関誌などを販売している。



沖縄県立博物館年報 No.12

(1) 博物館文化講座

博物館文化講座は昭和49年5月に開設されてから今年は7年目になる。

この文化講座は原則として毎月1回（第4土曜日午後2時半から）実施しており、講座の内容は総合博物館である当館の展示内容と関連する、自然・考古・歴史・民俗・美術工芸などについて、館内外の専門家に講師を依頼し、専門的なことをできるだけ一般向けにわかりやすい内容で話してもらっている。

また、当館主催の特別展と関連して実施される講座もあり、特別展の意義と内容についての説明も行なっている。

現在ではすっかり県民の間に定着してきており、昨年度からは「史跡見学」や「博物館で描こう」等の館外学習や実技等を取り入れ好評を得ている。

今後とも内容の充実とともに親しみやすく、しかも多様化社会の要望にも応じられる文化講座を目指しておりますので皆様の一増のご援助をお願い致します。また文化講座についてご意見ご要望などがありましたら、直接または電話でご連絡ください。

昭和54年度の文化講座

第62回 4月28日(土) 沖縄の民話

講師 遠藤庄司（沖縄国際大学教授）

(1)沖縄の民話圏の各々の特長と本土の民話との比較 (2)沖縄本島・宮古・八重山三地域の民話の特長などについて、

第63回 5月26日(土) ケラマジカと保護のはなし

講師 池原貞雄 (琉球大学教授)

新納義馬 (琉球大学教授)

国指定天然記念物に指定されているケラマジカについて、その生態をスライドを使って説明・現在30頭に減少したといわれる、ケラマジカの保護の問題を考える。

第64回 6月16日(土) 沖縄の漁業

講師 上田不二夫 (沖縄水産高校教諭)

①漁業の歴史と特徴②漁法③漁場制度を語ることにより「沖縄の漁業」を知る手がかりとなる。

第65回 7月28日 博物館で描こう・高校生

対象

講師 与儀達治 (興南高校教諭)

博物館資料を対象として、高校の美術クラブ員に絵を描いてもらい、美術担当の先生に指導してもらった。

①ぬらい②描く物の例③デッサン力④イラストとしての表現

第66回 8月25日(土) 伊江島の先史時代

講師 安里嗣淳 (教育庁文化課主任専門員)

①伊江島の環境②伊江島先史時代遺跡の調査史③伊江島の遺跡分布と時期区分④生活と社会⑤他地域との交流について

第67回 10月6日(土) 沖縄の古窯を語る—

パネルディスカッション

パネラー 大城精徳 (陶磁研究家) 普天間敏 (糸満高校教諭) 宮城篤正 (当館学芸員)

司会 知念 勇 (当館学芸員)

喜名焼・知花焼・古我知焼・湧田焼等の古窯

の特徴とその問題点についてディスカッションを行なった。

第68回 11月25日(日) 史跡めぐり

講師 知念 勇 (当館学芸員)

コース 県立博物館→木綿原貝塚→座喜味城跡→読谷村立歴史民俗資料館→仲泊遺跡→アカジヤンガー貝塚→勝連城跡→博物館

第69回 12月15日(土) グスクの話

講師 嵩元政秀 (興南高校教諭)

①グスクの分布と立地②グスクの分類③言語学上のグスク④建築学上よりみたグスク⑤グスクから出土する遺物⑥グスクの性格について

第70回 2月23日(土) 沖縄の自然環境と天然記念物

講師 新納義馬 (琉球大学教授)

国及び県指定の天然記念物(植物)の重要性と現状をスライドで説明し、保護の必要性について

第71回 3月22日(土) 熱帯から亜熱帯の白アリの生活

講師 安部琢哉 (琉球大学助教授)

マレーシアを中心とした熱帯から亜熱帯のシロアリの生態をスライドを使って説明

特別文化講座

4月14日(土) 午後2:30~5:00

テーマ ソ連・モンゴル共同発掘調査について

講師 N・N・クラマレンコ博士 (ソ連科学アカデミー古生物研究所・移動博物館々長)

恐竜発掘の模様を16mm映画などを利用して解説

テーマ 白亜紀(はくあき)の生物界について

講師 A・G・ポノマレンコ博士

古代トンボ・水棲昆虫など、ソ連・モンゴル地帯の1億年前の生物界の様子をスライドを使

いながら解説した。

通訳 原田篤子 (対外文化協会)

昭和55年1月12日(土)午後2:30~5:00

テーマ 日本美術の特性—救世熱海美術館の
品にふれて

講師 松下隆章 (文化財保護審議委員)

特別展—日本の美—救世熱海美術館名品展の
展示品をスライドを使って解説を行なった。

映写会

11月3日(土)

題目 ループル美術館 他戦前の沖縄のフイ
ルム3本

(2) 第1回移動博物館

沖縄県には人の住む島が40近くある。これら離島の人々は、沖縄本島と海を隔てているというそれだけの理由で、教育的・文化的恩恵に浴しないことが多い。沖縄の自然・歴史・文化に関する総合博物館として、これら離島の人々にどのように博物館を利用してもらうか、博物館として何ができるか、それは当館の創立以来の課題ともいうべきものであった。

その試みのひとつとして今年度初めて「移動博物館」を実現することができた。昭和55年2月27日(水)から3月1日(木)までの4日間、久米島の具志川村、仲里村両教育委員会との共催で第1回移動博物館を開催した。内容は展示会、講演会(文化講座)、映写会の組み合わせとした。

展示会は、型絵染めの人間国宝として知られる鎌倉芳太郎氏が、大正末期から昭和初期にかけて撮影した写真(サントリー美術館寄贈)を主とする戦前の沖縄の写真と、沖縄の天然記念物の動物写真によって構成し、これに琉球王府から久米島へ送られた久米島紬つむぎの図案11枚、図案に合わせてつくられた紬の裂地1点を加えた。また、講演会は名嘉正八郎副館長の「沖縄の城

(グスク)」と大城逸朗主任学芸員による「久米島のおいたち」とし、映写会は、昭和10年代の沖縄を写したフィルム3本に沖縄の蝶やトンボの生態を紹介した映画2本を上映した。

砂糖キビの収穫時期にかちあったが、それでも年輩の人や婦人、公務員などが訪れ、展示品に見入っていた。また、展示会場には久米島のほとんどの小中学校生が団体で見学に来た。低学年の生徒たちには天然記念物の動物写真に興味を示すのが多かったが、高学年、中学生には戦前の沖縄の写真も好評で、なかには久米島紬の図案と紬の裂地(きれじ)が一番印象深かったと答える生徒もいた。

会場その他の設備の問題、輸送の問題などがあって実物資料の展示は少なかったが、次回からは移動博物館用の展示ケースなども製作して、より多く実物資料を展示できるようにしたい。

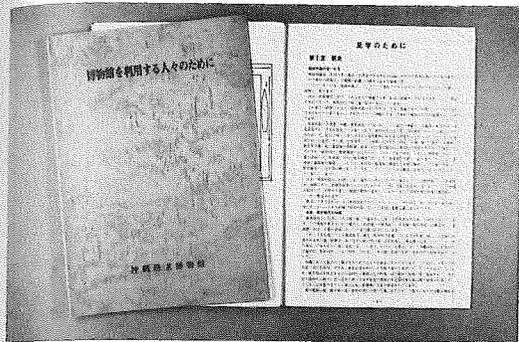


第1回 移動博物館

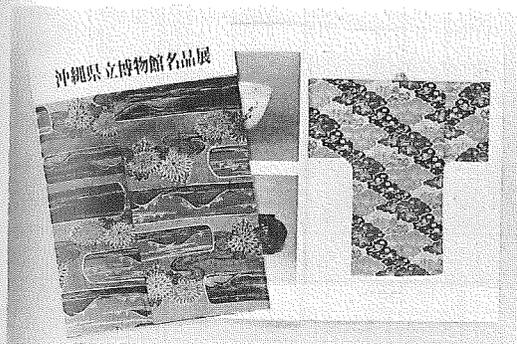
(3) 広報出版

昭和⁵⁴55年度の刊行物には次のようなものがある。

『沖縄県立博物館紀要』第6号、『沖縄県立博物館年報』No.12、『博物館を利用する人々のために』、『沖縄県立博物館名品展』(図録)『日本の美—救世熱海美術館名品展—』(図録)ならびに同展ポスター、「博物館だより」No.7、No.8、『南風原朝光、名渡山愛順遺作二人展』(図録)ならびに同展ポスター、「伊江島の先



博物館を利用する人々のために



沖縄県立博物館名品展



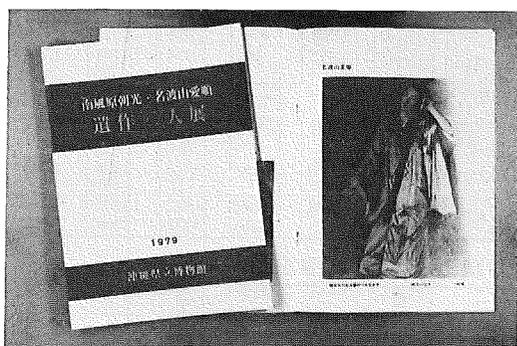
日本の美一救世熱海美術館名品展



博物館だより 7・8号

史時代」(特別展カタログ)、『栗国島総合調査報告書』、『沖縄の洞穴と洞穴生物』(図録)ならびに同展ポスター、その他リーフレット、第一回移動博物館(久米島)のポスターなど。

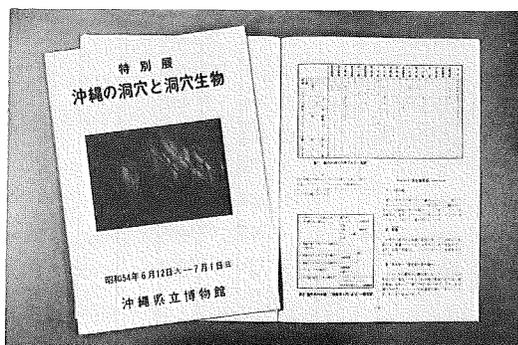
文化講座、特別展などの催し物については県内のテレビ、ラジオ、新聞等に報道を依頼して、広く一般県民へのPRを行ない、あわせて、その都度、取材等もして貰っている。



南風原朝光・名渡山愛順遺作二人展



伊江島の先史時代



沖縄の洞穴と洞穴生物

入館者数

月別入館者数 (常設展)

() 内は無料扱い

項目 月	個 人				団 体				総 数				開館日数	1日平均
	大 人	高大生	小中生	計	大 人	高大生	小中生	計	大 人	高大生	小中生	計		
54年4月	6,200 (110)	534	589	7,323 (110)	1,167 (100)	36	304	1,507 (100)	7,367 (210)	570	893	8,830 (210)	23	383
5月	6,482 (44)	261	346	7,089 (44)	4,048 (511)	610	1,098	5,756 (511)	10,530 (555)	871	1,444	12,845 (555)	25	513
6月	3,832 (46)	305	463	4,600 (46)	4,585 (640)	740	988 (144)	6,313 (784)	8,417 (686)	1,045	1,451	10,913 (144)	25	457
7月	5,470 (109)	1,343	967	7,783 (109)	1,058 (34)	515	272 (148)	1,845 (182)	6,531 (143)	1,858	1,239 (148)	9,628 (291)	26	370
8月	7,223 (40)	1,753	2,204 (6)	11,180 (46)	654 (109)	803	636 (9)	2,093 (118)	7,877 (149)	2,556	2,840 (15)	13,273 (164)	25	530
9月	2,570 (6)	409	273	3,252 (6)	1,035 (242)	1,602	183 (12)	2,820 (254)	3,605 (248)	2,011	456 (12)	6,072 (260)	20	303
10月	6,490 (106)	243	616 (19)	7,349 (125)	1,040 (102)	1,560	1,846 (54)	4,446 (156)	7,530 (208)	1,803	2,462 (73)	11,795 (281)	24	491
11月	8,200 (103)	337	655	9,192 (103)	2,039 (1,070)	2,691	3,321 (580)	8,051 (1,721)	10,239 (1,173)	3,028 (71)	3,976 (580)	17,243 (1,824)	24	718
12月	3,088 (23)	122	248	3,458 (23)	782 (108)	1,209	3,088 (78)	5,079 (186)	3,870 (131)	1,331	3,336 (209)	8,537 (209)	20	426
55年1月	特別展「日本の美—救世熱海美術館名品展」迄～迄													
2月	3,093 (23)	291	126	3,510 (23)	643 (23)	0	295 (24)	938 (47)	3,736 (46)	291	421 (24)	4,448 (70)	13	342
3月	7,306 (21)	1,590	680	9,576 (21)	1,526 (30)	2,519	675	4,720 (30)	8,832 (51)	4,109	1,355 (51)	14,296 (51)	25	571
計	59,957 (631)	7,188	7,167 (25)	74,312 (656)	18,577 (2,969)	12,285 (149)	12,706 (971)	43,568 (4,089)	78,534 (3,600)	19,473 (149)	19,873 (996)	117,880 (4,745)	250	471

曜日別入館者数 (常設展)

() 内は無料扱い

	個 人				団 体				総 数				開館日数	1日平均		
	大 人	高大生	小中生	計	大 人	高大生	小中生	計	大 人	高大生	小中生	計		日数	個人	団体
火	9,954 (69)	1,151	838 (19)	11,943 (88)	1,440 (362)	1,409	2,733 (65)	5,582 (427)	11,394 (431)	2,560	3,571 (84)	17,525 (515)	42	284	132	416
水	9,983 (115)	1,242	587	11,812 (115)	1,889 (762)	3,997 (44)	3,477 (129)	9,363 (935)	11,872 (877)	5,239 (44)	4,064 (129)	21,175 (1,050)	41	288	228	516
木	8,697 (199)	1,001	715	10,413 (199)	5,435 (416)	1,350 (78)	3,140 (46)	9,925 (540)	14,132 (615)	2,351 (78)	3,855 (46)	20,338 (739)	40	260	248	508
金	9,520 (120)	1,421	941 (6)	11,882 (126)	2,648 (483)	2,460	1,578 (54)	6,686 (537)	12,168 (603)	3,881	2,519 (60)	18,568 (663)	43	276	155	431
土	8,860 (88)	1,123	1,237 (88)	11,220 (88)	4,198 (803)	1,968 (27)	858 (601)	7,024 (1,431)	13,058 (891)	3,091 (27)	2,095 (601)	18,244 (1,519)	41	273	171	444
日	12,943 (40)	1,250	2,849 (40)	17,042 (40)	2,967 (143)	1,101	920 (76)	4,988 (219)	15,910 (183)	2,351 (76)	3,769 (259)	22,030 (259)	43	396	116	512
計	59,957 (631)	7,188	7,167 (25)	74,312 (656)	18,577 (2,969)	12,285 (149)	12,706 (971)	43,568 (4,089)	78,534 (3,600)	19,473 (149)	19,873 (996)	117,880 (4,745)	250	297	174	471

団体入館者数 (常設展)

	県 内								県 外								国外 (含沖縄県在住外国人)								総 計			
	小中生		高大生		大 人		計		小中生		高大生		大 人		計		小中生		高大生		大 人		計					
	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員	団体数	人員		
54年					7	219	7	219	1	203	1	36	31	1,070	33	1,309	1	94					1	94	41	1,622		
4月																												
5月	17	1,059			12	702	29	1,761			8	610	37	2,179	45	2,789	2	77					2	77	76	4,627		
6月	11	999	1	26	7	371	19	1,396			9	689	41	5,092	50	5,781	4	246					4	246	73	7,423		
7月	1	178	1	49	5	264	7	491			4	464	17	840	21	1,304										28	1,795	
8月	8	258			12	439	20	697	3	685	1	703	15	370	19	1,758											39	2,455
9月	1	180			2	56	3	236			15	1,952	16	1,155	31	3,107											34	3,343
10月	13	1,306			6	176	19	1,482			16	1,555	17	839	33	2,394	3	90	1	25	1	33	5	148	57	4,024		
11月	36	3,291	1	44	7	349	44	3,684			16	2,589	33	1,512	49	4,101	1	49					1	49	94	7,834		
12月	23	3,086	1	78	7	191	31	3,355			10	1,040	15	529	25	1,569							1	61	1	61	57	4,985
55年																												
1月																												
2月	2	259					2	259					12	360	12	360	1	31					6	252	7	283	21	902
3月	4	572			3	92	7	664	1	23	20	2,425	31	1,179	52	3,627	1	20					7	247	8	267	67	4,558
計	116	11,188	4	197	68	2,859	188	14,244	5	911	100	12,063	265	15,125	370	20,099	13	607	1	25	15	593	29	1,225	587	43,568		

特別展「日本の美一救世熱海美術館名品展」入館者数

	個人				団体				総計				招待
	大人	学生	小中	計	大人	学生	小中	計	大人	学生	小中	計	
55年 1月12日	369	14	54	437	525	1,009	1,337	2,871	894	1,023	1,391	3,308	106
13	1,032	63	484	1,579	1,335	79	410	1,824	2,367	142	894	3,403	102
14	374	21	10	405	320	1,027	9	1,356	694	1,048	19	1,761	63
15	1,327	81	752	2,160	1,000	52	353	1,405	2,327	133	1,105	3,565	93
16	412	25	8	445	432	443	381	1,256	844	468	389	1,701	41
17	352	35	8	395	236	446	260	942	588	481	268	1,337	233
18	376	43	5	424	171	19	1,412	1,602	547	62	1,417	2,026	70
19	613	57	142	812	450	83	131	664	1,063	140	273	1,476	301
20	1,382	81	749	2,212	1,569	123	598	2,290	2,951	204	1,347	4,502	145
21	310	26	10	346	171	10	800	981	481	36	810	1,327	163
22	414	23	6	443	214	303	794	1,311	628	326	800	1,754	261
23	369	25	3	397	255	73	385	713	624	98	288	1,110	220
24	413	31	7	451	287	333	1,047	1,667	700	364	1,054	2,118	329
25	287	28	11	326	244	1,707	718	2,669	531	1,735	729	2,995	392
26	736	68	122	926	726	1,344	471	2,541	1,462	1,412	593	3,467	154
27	1,699	104	994	2,797	2,367	231	767	3,365	4,066	335	1,761	6,162	192
28	406	32	107	545	572	1,582	520	2,674	978	1,614	627	3,219	237
29	462	42	18	522	477	1,356	477	2,310	939	1,398	495	2,832	266
30	623	44	35	702	477	59	1,185	1,721	1,100	103	1,220	2,423	349
31	626	73	24	723	615	244	294	1,153	1,241	317	318	1,876	347
2月1日	908	100	47	1,055	865	235	695	1,795	1,773	335	742	2,850	177
2	1,566	145	304	2,015	1,794	274	597	2,665	3,360	419	901	4,680	285
3	3,252	188	1,313	4,753	4,874	361	1,417	6,652	8,126	549	2,730	11,405	550
計	18,308	1,349	5,213	24,870	19,976	11,393	15,058	46,427	38,284	12,742	20,271	71,297	5,076
※	66	1	17	84	14,349	1,797	1,811	17,957	14,415	1,798	1,828	18,041	
総計	18,374	1,350	5,230	24,954	34,325	13,190	16,869	64,384	52,699	14,540	22,099	89,338	5,076

※の人員数は入館券購入、都合により観覧出来なかった数

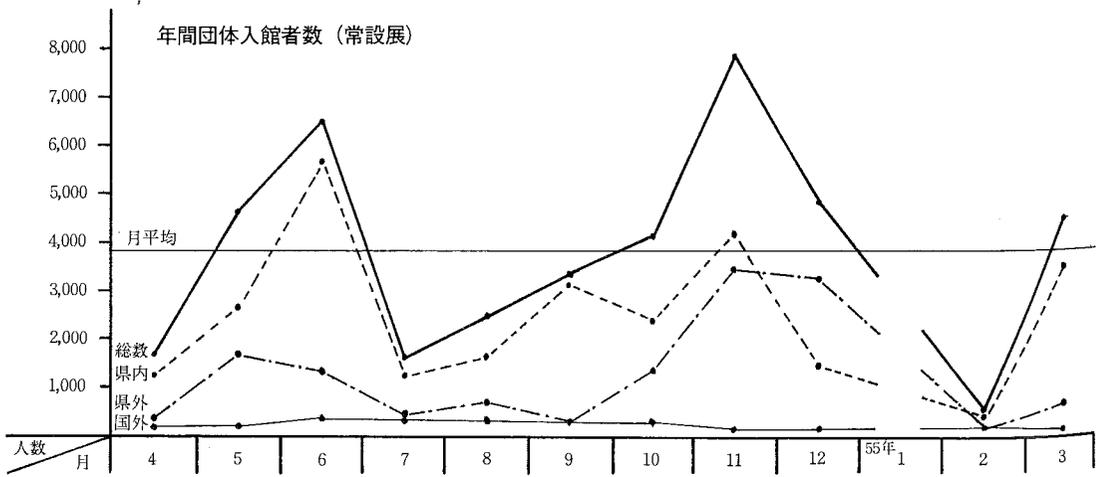
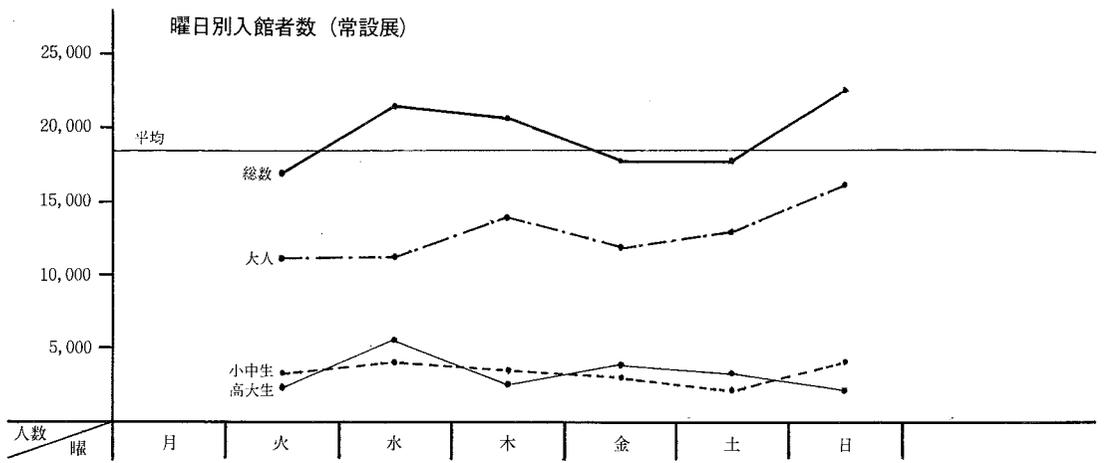
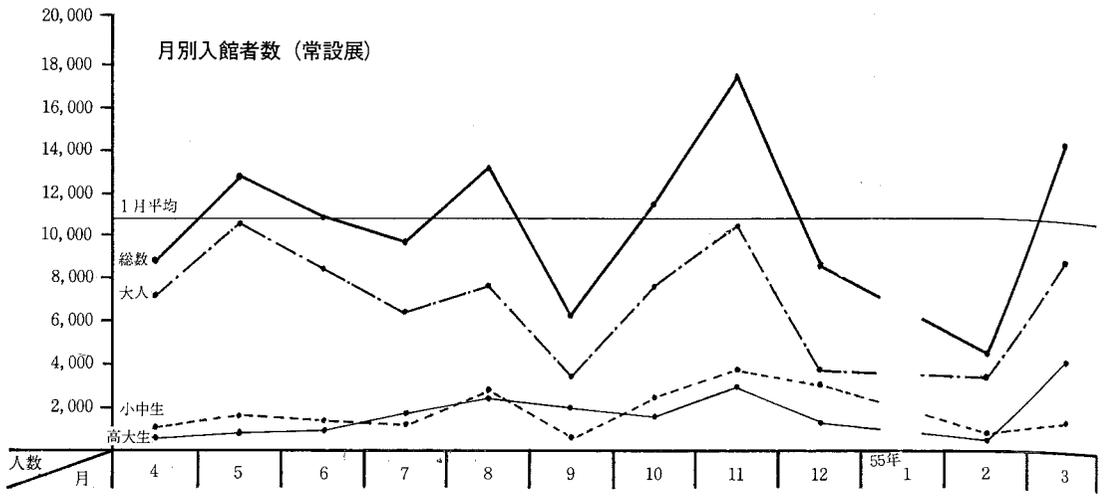
招待者数の内には小、中、高校の要・準要保児童生徒及び授業料免除生徒、特殊学校児童生徒を含む。

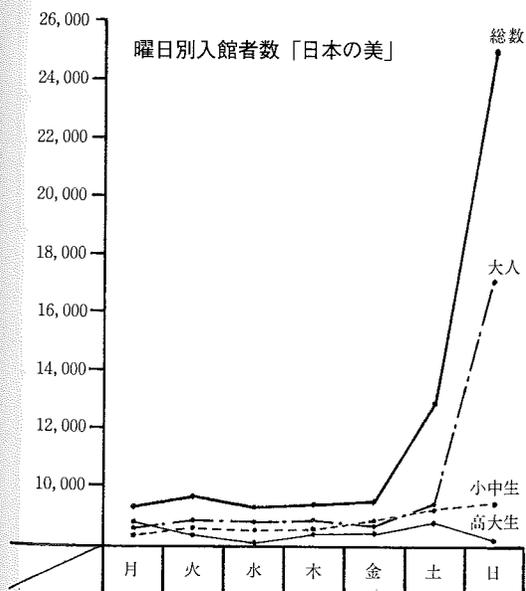
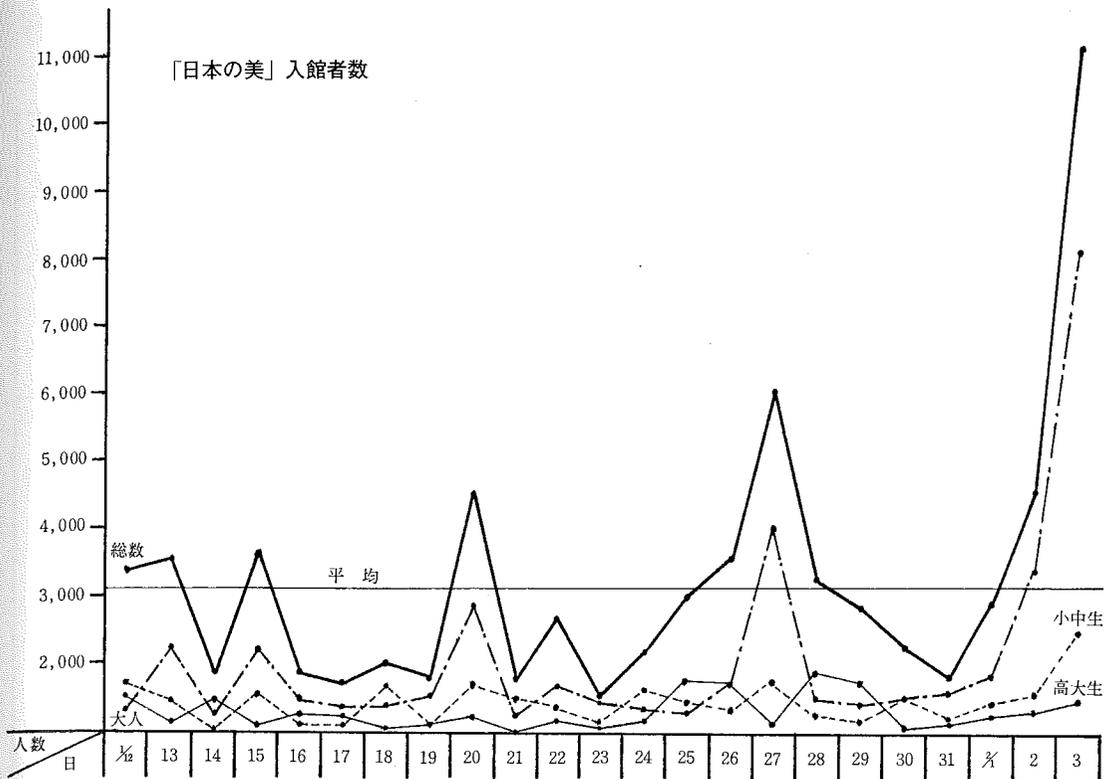
曜日別入館者数（特別展）

	個人				団体				総数				開館日数	1日平均		
	大人	高大生	小中生	計	大人	高大生	小中生	計	大人	高大生	小中生	計		個人	団体	計
月	1,090	79	127	1,296	1,063	2,619	1,329	5,011	2,153	2,699	1,456	(463)	3	432	1,670	(154)
火	2,203	146	776	3,125	1,691	1,711	1,624	5,026	3,894	1,857	2,400	6,307 (620)	3	1,041	1,675	2,102 (206)
水	1,404	94	46	1,544	1,164	575	1,951	3,690	2,568	669	1,997	8,151 (610)	3	514	1,230	2,716 (203)
木	1,391	139	39	1,569	1,138	1,023	1,601	3,762	2,529	1,162	1,641	5,234 (909)	3	523	1,254	1,744 (303)
金	1,571	171	63	1,805	1,280	1,961	2,825	6,066	2,851	2,131	2,888	5,331 (639)	3	601	2,022	1,777 (213)
土	3,284	284	622	4,190	3,495	2,710	2,536	8,741	6,779	2,994	3,158	7,871 (989)	4	1,047	2,185	2,622 (247)
日	7,365	436	3,540	11,341	10,145	794	3,192	14,131	17,510	1,230	6,732	12,931 (846)	4	2,835	3,532	2,622 (211)
計	18,308	1,349	5,213	24,870	19,976	11,393	15,058	46,427	38,284	12,743	20,272	71,297 (5076)	23	1,081	2,018	3,099 (220)

※ () 内の数は、招待者（小・中・高の要・準要保護児童生徒・授業料免除生徒及び特殊学校児童生徒含む。）

入館者数 (常設展)





入館者数

今年度の入館者総数(常記展)は122,625人(内4745人は無料扱い)で、年間250日開館し、1日平均入館者数は490人。

月別の入館者数は表1のとおりであるが、3月、5月、8

月、10月、11月の5ヶ月が圧倒的に多く、この5ヶ月で全体の約60%を占めている。

これは、県内、県外の小・中・高校の修学旅行等及び各観光ツアーによる団体入館者がこの時期に集中するためである。団体は587団体、43,568人で、全体の約40%を占めている。

うち県内188団体14,244人、県外370団体28,099、国外(含沖縄県在住外国人)29団体、1,225人となっている。

県内の団体をみますと、老人クラブを始めとし、婦人学級、教育隣組、子供会、その他各種学校等となっている。このように社会教育活動の場として活用されていることは好ましいことである。

また、特別展「日本の美—救世熱海美術館名品展」が昭和55年1月12日から2月3日までの23日間国宝1点、重要文化財9点、重要美術品17点を含む百余点選ばれ、沖縄の地で初めて公開され、絵画、書蹟、彫刻、工芸の各分野からの作品で構成され、沖縄の人にとっては、日本美術の魅力に接する大変よい機会であったことだろうと思慮される。

併催「沖縄県立博物館名品展」も開催され、国指定3件、県指定3件、県指定18件を含む75件(絵画12件、書蹟、典籍、古文書12件、装身具1件、楽器2件、彫刻2件、漆器8件、陶磁器24件、紅型6件、織物7件、金工1件)を選び出し公開された。

日本の美と沖縄の美の精華が同時に公開されたことはかつてなかったことで、大変有意義なことではなかっただろうか。

延入館者数は、76,373人(内5,076人は無料扱い)で1日平均3,320人。1日の最高入館者数は、最終日の2月3日(日)の11,405人で、1月27日(日)の6,162人がこれにつぐ。

予算の推移

(単位：千円)

区分	内 訳	年 度	昭和53年度	昭和54年度
歳 入	博 物 館 使 用 料			8,220
	建 物 使 用 料			29
	諸 収 入			0
	合 計			8,249
歳 出	(事項) 博 物 館 管 理 運 営 費		27,909	94,872
	(節) 報 酬		105	150
	(〃) 賃 金		1,205	1,395
	(〃) 報 償 費		268	506
	(〃) 旅 費		676	1,220
	(〃) 需 用 費		7,824	9,740
	(〃) 役 務 費		1,325	1,365
	(〃) 委 託 料		6,977	9,271
	(〃) 使 用 料 及 賃 借 料		138	138
	(〃) 工 事 請 負 費		3,037	57,216
	(〃) 備 品 購 入 費		6,343	13,677
	(〃) 負 担 金 補 助 及 交 付 金		44	44
	(〃) 投 資 及 出 資 金		0	150

特別展「日本の美—救世熱海美術館名品展—」 歳入歳出状況

(単位：千円)

歳 入 の 部		歳 出 の 部	
博 物 館 使 用 料	32,356	(事項) 博 物 館 管 理 運 営 費	21,000
諸 収 入	31	(節) 賃 金	923
合 計	32,387	(〃) 旅 費	1,810
		(〃) 需 用 費	3,270
		(〃) 役 務 費	10,870
		(〃) 委 託 料	41,27

資 料

1. 收藏資料現在高

昭和55年 3月31日現在

分類		受理次第	購 入	寄 贈	收 集	移 管	計
繪 画	A		58	82	1	0	141
書 跡	B		80	322	50	5	457
彫 刻	C		11	27	163	0	201
建 築	D		4	18	0	0	22
陶 磁 器	E		421	738	256	502	1,917
染 織 器	F		765	213	12	0	990
漆 器	G		169	141	114	0	424
金 工	H		10	47	19	0	76
歴 史	I		4	148	2	1	155
貨 幣	J		25	548	86	0	659
音 樂 · 芸 能	K		50	33	0	0	83
装 身 具	L		68	38	14	0	120
民 俗	M		446	1,392	69	73	1,980
考 古	N		36	507	195	0	738
武 器 · 武 具	O		12	17	0	0	29
戰 争 資 料	P		111	11	0	0	122
自 然	X		53	190	6	0	249
計			2,323	4,472	987	581	8,363

2. 昭和54年度收藏資料

昭和55年 3月31日現在

分類		受理次第	購 入	寄 贈	收 集	移 管	計
繪 画	A		3	30	0	0	33
書 跡	B		1	62	0	0	63
彫 刻	C		0	2	0	0	2
建 築	D		0	1	0	0	1
陶 磁 器	E		4	49	0	0	53
染 織 器	F		1	18	0	0	19
漆 器	G		4	12	0	0	16
金 工	H		0	0	0	0	0
歴 史	I		0	97	0	0	97
貨 幣	J		0	52	0	0	52
音 樂 · 芸 能	K		0	1	0	0	1
装 身 具	L		0	1	0	0	1
民 俗	M		0	123	1	0	124
考 古	N		0	5	20	0	25
武 器 · 武 具	O		0	0	0	0	0
戰 争 資 料	P		0	5	0	0	5
自 然	X		4	102	0	0	106
計			17	560	21	0	598

3. 新収蔵資料内容

(1) 購入の部

分類	品名	数量
絵画	琉球船の図	1
"	進貢船の図	1
"	沖繩の女物	1
書跡	鄭嘉訓書卷	1
陶磁器	赤絵ブドウ文酒注瓶	1
"	古我知焼渡名喜碗	1
"	喜名焼瓶	1
染漆織器	松竹梅鶴亀文様紅型舞台幕箱	1
"	潤塗葡萄栗鼠螺鈿箔絵硯箱	1
"	潤塗葡萄栗鼠螺鈿箔絵硯箱	1
"	螺鈿重香箱	1
自然	螺鈿香合	1
"	紫水晶	2
"	水	1
"	水晶膏	1

(2) 寄贈の部

分類	品名	数量	寄贈者	住所
絵画	達磨の着るすりを磨く	1	長嶺将秀	那覇市
"	水色地がすり	1	名渡山愛	京都
"	坊ノ津	2	中山川伊作	東京都
"	山水	1	神山政敏	東京
"	樹	1	神山政敏	"
"	得寿自画像	22	長坂千代	"
"	玉陵	1	名渡山愛	那覇市
"	絵因果経断簡	1	救世熱海美術館	静岡市
書跡	和文かな書他物	16	諸喜田喜徳	那覇市
"	鄭嘉訓書卷	1	宮城安秀	東京都
"	高人鑑書扇面他	5	神山政敏	"
"	墓地証文(拓本)	2	伊佐真一	"
"	琉球王代文献集遺老説伝他	3	三島	熊本県
"	不知之句他	22	長坂千代	東京都
"	博物物筌	1	等々力孝志	長野県
"	楊草仙書軸	1	奥浜真昌	那覇市
"	石碑(墓碑拓本)	1	浦添市史編集室	浦添市
"	沖繩集二編(上・下)	2	原吉郎	浦添市
"	仙巖別館江南竹記(石碑)	1	某氏	浦添市
建陶磁器	灰色瓦(男瓦)	1	等々力孝志	長野県
"	茶碗他	2	安田茂郎	京都市
"	雲龍文貼付壺	1	沖	静岡市

分類	品名	数量	寄贈者	住所	
建築	彫絵そろばん玉型急須	1	座波あさ子	那覇市	
	土器	34	等々力孝志	長野県	
	荒焼面取抱瓶	2	伊藤勝一	京都市	
	御殿型厨子甕	1	沖縄タイムス社	那覇市	
	縄目文壺	1	吉戸直(観宝堂)	〃	
	線彫魚文湯呑	1	当真嗣起	〃	
	鮫釉酒注他	5	仲地利子	〃	
	柿釉線彫雲文酒注	1	池原元秀	〃	
	長崎貿易船守護神	2	等々力孝志	長野県	
	桐板格子緋着物	1	座波あさ子	那覇市	
彫染	木綿紺地緋着物	1	喜名ナビ	〃	
	藍型染裂	1	伊藤勝一	京都市	
	紅型(軸)	1	神山政敏	東京都	
	龍瑞雲青海立波文唐織衣装	12	伊井文子	東彦根市	
	口ートン織布地	1	石川洋	京都市	
	麻浅地経編緋着物	1	名幸津留子	那覇市	
	漆器	黒漆紋入捌箱	1	アルフォンス・コーン	ハワイ・ホノルル
	朱漆牡丹七宝繫紋沈金文庫他	2	長坂千代	東京都	
	黒漆人物遊戯絵螺鈿角皿	5	伊藤勝一	京都市	
	朱漆パイヤ芭蕉文堆錦重箱	1	池宮正治	北谷村	
歴史	朱漆鳳凰瑞雲箔絵小櫃他	4	井伊文子	彦根市	
	バジ(ン)ホール大琉球島航海記他	2	George.H.Kerr	ハワイ・ホノルル	
	琉球の王子他	5	Paul .C.Blum	ハワイ	
	義村家御墓の凶	1	長坂千代	東京都	
	開智軍友会腕章・バッチ他	88	伊藤勝一	京都市	
	藤原宮跡の屋根瓦(拓本)	1	某氏	浦添市	
	貨幣	乾隆通宝他	2	平安名常和	那覇市
	寛永通宝他	49	伊藤勝一	京都市	
	寛永通宝	1	真玉橋朝史	那覇市	
	樂器・芸能	工工四湛水流	1	奥間キミ子	嘉手納町
装身具俗	真鍮簪	1	又吉誠仁	大阪市	
	イザイバナ	1	糸数いつ子	知念村	
	〃	1	糸数竹秀	〃	
	墓誌	19	仲尾次政剛	東京都	
	カシラ三味線	1	又吉真栄	那覇市	
	カイラミ	1	嘉本数栄	浦添市	
	キシラ他	7	根本真加	与那国町	
	ペシラナ	1	某氏	〃	
	ペシラ	1	比屋定弘	那覇市	
	イシラヤ	1	波照間ト	竹富町	

分類	品名	数量	寄贈者	住所
"	江戸独楽他	13	等々力孝志	長野県市
"	竿ばかり	1	安次富長	那覇市
"	ヤックワッ	1	安村	那覇市
"	獅子頭他(玩具)	24	伊藤勝	京都市
"	上焼御殿型厨子甕他	8	比嘉	京都市
"	手ま	2	那覇中3年5組	那覇市
"	厨子	25	阿賀嶺良雄	宮崎市
"	朱塗茶盆	1	井伊文子	彦根市
"	斧の刃	1	中井勇治	那覇市
"	マピーラ他	2	貝敷文雄	竹富町
"	ブピーキ他	2	糸数盛栄	石垣市
"	メッ	1	東里哲三	竹富町
"	ジュラルミン製茶碗	3	上江洲智道	那覇市
"	ビラ	1	与那覇清友	那覇市
"	ホコ	1	知念善吉	佐敷村
"	屋根獅子片	1	宮城茂	大里村
考古	土器	数点	久手堅	具志川村
"	弥生式土器	2	等々力孝志	長野県市
戦争資料	鉄兜	5	伊藤勝一	京都市
自然	マンモスの左下顎第3大臼歯	1	ソ連科学アカデミー 古生物学研究所 三コライ・グラマレンコ	モスクワ
"	タルボサウルスの指趾骨	8	"	"
"	董青石仮晶	23	白杵尚義	東大阪市
"	水晶	4	山本勝吉	人尾市
"	モノチス化石	26	奥田朝造	大阪市
"	スナモグリの爪の化石	5	井上繁	神戸市
"	カプトガニ(メス・オス)	2	石橋毅	九州大学理学 地質学教室
"	イカリナマコ科 Labidoplax digitata 他	9	海洋博カナダ館	
"	ニシン科 Diplomytus sp. 他	7	北九州市立自然史博物館設立準備室	北九州市
"	オキナワコキクガシラコウモリ	9	下謝名松栄	浦添市
"	レインボーストーン	3	与那覇豊政	那覇市
"	リュウキュウジカの左角	3	伊江村教育委員会	伊江村
"	魚の化石	1	花城清光	那覇市
写真	日本写真帳	3	伊藤勝一	京都市

(3) 収集の部

分類	品名	数量
民俗	ガシナ	1
考古	磁器	2
"	土器	一括
"	黒曜石	2

4. 新収蔵図書

(1) 購入の部

書名	著 編 者
写真集 アイヌ 世界大美術史 化石鑑定のガイド 古脊椎動物図鑑 朝日百科世界の植物(全120冊) 朝日ラールス世界動物百科	須藤 功 ジーナ・ピスケル 小島 郁生 鹿間 時夫 朝日新聞社 "

(2) 寄贈の部

(昭和54年4月~55年3月現在)

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
千里民俗	関西大学民俗学研究会	西表島の祖納、 星立の節祭の芸能	西表民俗芸能保存会
くすり博物館だより3号~	くすり博物館	知花遺跡群 宇鉄II 遺跡発掘調査報告書	沖縄県教育委員会
柏姓家諸 正統	柏 姓 門 中	大平山元 I "	青森県立郷土館
広原横穴群	宮崎市教育委員会	九 聘 泊、 蝟 田 の 民 俗	"
県内貝塚における遺存体 の研究	茨城県歴史館	調査研究年報	"
瑞浪市化石博物館研究報告	瑞浪市化石博物館	北九州市立美術館年報	北九州市立美術館
海にはばたけ	日本海事会報協会	河津光浚壁画模写展	"
薩摩地区有形民俗資料 調査報告書	鹿児島県明治百年 記念館	佐伯和美展	"
徳島県博物館紀要	徳島県博物館	北九州市洋画展	"
玄界島史資料調査概報	福岡市立歴史 資料館	日本の近代作家による 版画展	"
東京都美術館紀要II	東京都美術館	糸園和三郎展	"
おきなわの工業	新報出版印刷	明治の浮世絵展	"
おきなわのうたのえほん	"	大宰府史跡 (53年度発掘調査概報)	九州歴史資料館
美の沖縄	"	日本の美術 79・5~80・3	至 文 堂
埼玉県立博物館有資料目録	埼玉県立博物館	ソ連邦所蔵の フランス近代絵画展	京都国立近代 美術館
琉球絃	沖縄県立伝統 工芸指導所	沖大論叢 第1巻~第13巻	沖縄大学図書館
茨城県歴史館報 7	茨城県歴史館	沖縄県史料 近代2	沖縄県史料編集所
あるくみるきく (4月~80 3月)	日本観光文化 研究会		

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
貝塚博物館紀要 (創刊号～5号)	千葉市加曾利 貝塚博物館	沖繩編集所紀要 才4号	"
小松市立博物館研究紀要 (才14集～才15集)	小松市立博物館	糖業年報(第18号～第19号)	沖繩農林水産部
南北対話に臨む 韓国側の立場	大韓民国ソウル 平和統一研究所	伝統工芸振興行政の現状	沖繩県労働商工 部伝統工芸課
日本のかがみ	静岡市立登呂 博物館	資料館紀要才2号～第6号	京都府立総合 資料館
仲泊遺跡	恩納村教育委員会	山口県山口博物館研究報告	山口県立山口 博物館
久保田遺跡他遺跡詳細 分布調査報告	平塚市役所	東京国立博物館紀要才14号	東京国立博物館
自然と文化 2号	"	仙台市博物館年報	仙台市博物館
戦禍と飢え	新垣義夫 (普天間宮)	平良市の文化財	平良市教育委員会
現代を創る	科学技術庁振興局	日本美術	日本美術新社
議会時報	沖繩県議会事務局	京都国立近代美術館年報	京都国立近代 美術館
北京提案のあらまし	那覇大韓民国領事	名品図録第二集	救世熱海美術館 救世箱根美術館
山陽新幹線関係埋蔵文化財 調査報告 第8集	福岡県教育委員会	" 第三集	"
" 第9集	"	第22回学校基本調査報告書	沖繩県教育庁 企画室
" 附 図	"	防長土族叛乱史料集成目録	萩市郷土博物館
" 第10集	"	考古学資料図書1	国学院大学考古学 資料館
" 第11集	"	法華経の美術	奈良国立博物館
" 附 図	"	消えなる軌跡 才1部友人 琉球漆器の耐久性について (才1報)	武蔵野美術大学 県立伝統工芸 指導所
九州縦貫自動連道関係埋蔵 文化財調査報告 X X V I I 研究調査報告書 第6集	浦和市立郷土 博物館	沖繩県と海外移住	国際協力 事業団沖繩支部 北海道立近代 美術館
縄文土器と石器の神秘	岐阜県博物館	研究紀要第2号	"
稲荷山古墳出土鉄剣金象 欺銘概報	埼玉県立 さきたま資料館	子供と親の美術館'79 (救世熱海美術館名品展) 近世の美のこころ	"
那覇市統計書	那覇市役所	第2回北海道現代美術展	"
沖国大考古	沖国大文学部 考古学研究室	中村善策展	"
太宰府町文化財調査報告書 神ノ前窯跡 第2集	太宰府町 教育委員会	浜松博物館 1979	"
" 第1集	"	目でみる浜松の歴史	浜松市博物館
相原古墳跡 宗像町文化財調査報告書 久戸古墳跡 第2集	宗像町教育委員会	国鉄東海道線線路敷内 埋蔵文化財発掘調査報告書	浜松市教育委員会
若宮宮田工業団地関係第1集 埋蔵文化財調査報告書 福岡南バイパス関係(上) 第8集(下)	福岡県教育委員会	研究紀要II	武蔵野美術大学
附 図 1図～9図	"	長野県埋蔵文化財 調査集報II	長崎県教育委員会
山陽新幹線関係 埋蔵文化財調査報告書第12集	"	向ヶ岡貝塚	東京大学文学部

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告(XXXI)上中下	宮崎県教育委員会	研究紀要1	北九州市立歴史博物館
第13集	"	北九州市立歴史博物館年報1、2	"
"(XXX)	"	家と村II	平塚市博物館
"(XXIX)	"	平塚市須賀の民俗	"
"(XXVⅢ)	"	長崎県立美術博物館年報	長崎県立美術博物館
宮崎県文化財調査報告書第21集	山形県立博物館	所蔵品目録	"
稲荷森古墳(S53年度調査概報)	山形県立博物館	収蔵資料目録3	"
栃木県民俗地図II	栃木県教育委員会	沖繩の伝統工芸	沖繩県工芸振興センター
緊急民俗文化財分布調査報告	救世熱海美術館	昭和52年度業務報告	沖繩県伝統工芸指導所
名品図録第一集	救世箱根"	才32回 新匠工芸展賢会図録	新匠工芸会
文献史料による近世沖繩の社会、文化史的研究	琉大短期大学部	才33回 "	"
今帰仁城跡	今帰仁村教育委員会	読谷山花織の基本単位集	紀伊風土記のII資料館
沖繩民俗研究	沖繩民俗研究会	民俗資料目録	東京芸術大学芸術資料館
那覇市の文化財	那覇市教育委員会	平報(10巻)	(財)日本モンキーセンター
那覇の民話資料(才1集 小禄地区)	"	モンキー(No.165,166)	岡本恵昭
「平塚市博物館資料」No.19	平塚市博物館	東方界No.31,43,45,46~49,52,53,57~59,61~63,65,	"
二宮層群産軟体動物化石目録	山口県立山口博物館	宮古島旧記	"
山口県立山口博物館々報	琉大法文学部	広報 ひらら	"
琉大法文学部紀要	沖繩県議会事務局	平良市史編集室だより(創)	"
議会時報第27号	長野県美濃美術館	" No.4	"
館報第3号	成城大学民俗研究所	八重山文化研究会ニュース	"
紀要第3集	石川県立郷土資料館	宮古郷友通信	"
"第10号	"	第2回 研究発表会	"
高爪山と福浦港	沖繩県教育委員会	沖繩県立図書館要覧 1977	沖繩県立図書館
沖繩県洞穴実態調査報告II	三重県立博物館	日展ニュース No.13	社団法人日展
三重県立博物館研究報告	福岡県教育委員会	文化科学館だより6-1	佐世保市文化科学館
黒部古墳群(豊前市松江所在古墳群の調査)	福島県文化センター歴史資料館	対馬資料館報2	長崎県立対馬歴史民俗資料館
収蔵資料目録 才8集	東京国立博物館	博多祈園山笠展	福岡市立歴史資料館
美術誌(4~9月号)	"	福岡市立歴史資料館年報1	"
東京国立博物館総目録1~300号	宮内庁正倉院事務所	観光伝統工芸関連産業振興調査報告(S43)	沖繩総合事務局
正倉院年報 第1号	東京芸術大学芸術資料館	玉城村の遺跡	玉城村教育委員会
年報 75,76,77	国立劇場資料課		
芝居版画等図録			

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
岸田 劉生展 昭和53年度 京都国立博物館年報 館報 (昭和53年度) 新潟県内博物館等 美術資料目録 ナガタ原貝塚、船越貝塚 津山藩の神伝統 国立沖縄青年の家紀要No.1 沖縄文化研究6 趙新 続琉球玉志略 藏品目録 (民族資料篇) 喜如 嘉貝塚 地荒原遺跡苦増原遺跡 藏品図録 (絵画篇1) 袋井市大畑遺跡 総合目録 第2集 研究報告 第10号 岩国藩の法令集 1~3 古代文化 7 沖縄県社寺御獄林調査報告 保存科学 第18号 館報 '78 演劇研究 37~41 (第9号) Research Bulletin 資料館紀要 第7号 国立科学博物館研究報告 A類(動物学)第5巻第2号 " " B類(動物学)第5巻第2号 " " C類(地質学, 古生物学) 月報 第30巻第4号 館報 8 研究報告 第5集 中原上宿遺跡調査概要	京都国立近代 美術館 京都国立博物館 新潟県美術博物館 新潟県教育委員会 沖縄県教育委員会 市立津山郷土館 国立沖縄青年の家 法政大学 沖縄文化研究所編 沖縄県立図書館 市立函館博物館 大宜味村 教育委員会 具志川市 教育委員会 奈良県立美術館 袋井市教育委員会 事務局 愛媛県立博物館 " " 岩国徴古館 古代学協会 沖縄県教育委員会 東京国立文化財 研究所 那覇市役所 早稲田大学坪内博 士記念演劇博物館 斎藤報恩会 自然史博物館 京都府立 総合資料館 国立科学博物館 " " 地質調査所 武蔵野美術大学 美術資料図書館 石川県白山自然 保護センター 平塚市役所	琉球列島植物方言集 長浜遺跡 読谷村の埋蔵文化財 えどげいじゅつ 大龍遺跡 名渡山愛順画集 紀要 (第十二号) 大分の近世美術(書画) 所在調査報告書 年報 (昭和52, 53年度) 年報 年報 No.9 幕末における 佐賀藩鉄造の大砲とその復元 奄美風土記 年報 昭和52年 日本美術 夏 年報 研究紀要(昭和53年度) 年報 与世山親方宮古島規模帳 船の科学 特別陳列密教図像 博物館建設だより 研究報告 3巻4号 月報 5~7号 博物館学講座 4 津堅島地割調査報告書第6集 特集 今帰仁城跡 郷土 第17号 戦没者慰霊 沖縄戦跡巡拝の記念 桂離宮 道一風同一	天野 鉄夫 読谷村教育委員会 " " 原 書 房 大龍遺跡発掘 調査団 琉球新報社 立正大学教養部 大分県立芸術会館 " " 熊本県立美術館 佐賀県立博物館 " " 原田 禹雄 東京国立近代 美術館 (株)日本美術社 宮崎県総合博物館 " " 山口県博物館協会 沖縄県教育委員会 日本海事広報協会 京都国立博物館 岩手県教育委員会 国立民族学博物館 地質調査所 雄山閣営業部 沖縄県教育委員会 今帰仁村 教育委員会 沖大沖縄学生協会 伊藤 勝一 " " " "

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
研究報告 古典籍下見展 観大入札会目録 展観入札目録	東京都高尾自然科学博物館 伊藤勝一	京の茶室 日本の美術Ⅱ 仙台市博物館図録	伊藤勝一 至文堂 仙台市博物館
埋蔵文化財要覧 四 原免現代日本の美術(16) 陶芸(2)	文化庁文化財保護部 小学館	信濃 第31巻第10号 青森県立郷土館報	信濃史学会 青森県立郷土館
琉球王代文献集第2集 琉球夜話 第3編	三島格 "	日本の郷土玩具 なりた No.20~21	成田山史料館 成田山霊光館
中山王代記 卷1 鹿児島県立博物館資料目録 第一集 動物	鹿児島県立博物館 "	八王子市郷土資料館だより 八王子の土師器	八王子郷土資料館 "
第二集 植物、岩石、鉱物 プレーインカの染織	京都国立近代美術館 等等力高志	博物館ニュース第51, 52号 船の港のはくぶつかんNo.66	山形県立博物館 横浜海洋科学博物館
世界歴史 1~4 " 6~20	"	沖縄の統計 No.66 己未特別展絵馬	沖縄県企画調整部統計課 埼玉県博物館
大航海時代叢書Ⅵ シナ大王国誌 " Ⅲ " 自然文化史上 " Ⅳ	"	博物館だより 29, 30 ケラマジカ 実態調査報告 Ⅳ	沖縄県教育委員会 琉大地理研究会
" Ⅸ 日本社会史上 " X " 下 " Ⅷ 東方案内記 " Ⅵ 日欧文化比較	"	琉大地理 第12・13号 日向の古墳展	宮崎県総合博物館 岩国徴古館
" Ⅰ 航海の記録 " Ⅱ 西アフリカ航海の記録 " 東方諸国記 " 別巻 " 概説、年表、索引 " Ⅶ 諸島誌	"	染織マンスリー11~'80/3月 釧路市立郷土博物館紀要	染織と生活社 釧路市立郷土博物館 新潟県美術博物館
レイテ戦記(大岡昇平) 谷崎潤一郎 新々訳 源氏物語(全10巻) " 別巻	"	美術博物館だより3, 4 視る 148~152号	京都国立近代美術館 滋賀民俗学会
文化福島 10~'80/3月号 美術博物館だよりNo.44, 45 月刊みんぱく10~'80/3月	福島県文化センター 長崎県立美術博物館 国立民族博物館	民俗文化 資料館だより 第8号 年報 科学施設ニュース No.14 金城次郎作陶顕彰展	瀬戸内海歴史民俗資料館 名古屋市博物館 市立名古屋科学館 沖縄タイムス
		博物館だより 3~4 年報 (昭和53年度) 要覧 建設調査室だより 博物館ニュース	北海道立近代美術館 東京大学総合研究資料館 鹿児島県明治村百年記念館 東京国立博物館

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
博物館だより No.5	別府大学付属 博物館	現代版画センターNo.52~54	現代版画センター
りゅうぎん 9月~'80/3月	琉球銀行	松樺堂ニュース No.1	"
笠置季男作品集	笠置季男作品 集刊行会	館報 No.46, 47	佐賀県立博物館
資料図録 No.14	郵政省通信博物館 福岡市立歴史 資料館	科学館ニュースNo.160~163	市立名古屋科学館
土器(技術の変遷と美)	南方科学研究 資料センター	美術館だより 11号	奈良県立美術館
南科研資料センター報告	奈良国立博物館	博物館建設だより	岩手県教育委員会
正倉院展目録	岡山県総合 文化センター	博物館研究	日本博物館協会
岡山県総合文化センター ニュース No.181~182	創価学会沖縄支部	博物館だより	仙台市博物館
創価学会ニュース 126~135号	神奈川県立博物館 社団法人 中国研究所	美術の森 21	北九州市立美術館
博物館だより 3	伊藤勝一	資料館だより No.5	沼津市歴史 民俗資料館
中国研究月報 378~380	"	博物館だより No.3	岐阜県博物館
梅香帖	"	民俗博物館だより No.3	奈良県立 民俗博物館
西武古書展示即売会目録	"	青森県立郷土館だよりNo.3	青森県立郷土館
木村盛和作陶展	"	リトルワールド ニュース No.19	人間博物館財団法人 リトルワールド
クリスティーズ オークション	"	岡山県総合文化センター ニュース No.183~186	岡山県 総合文化センター
恩賜京都博物館年報	"	岡山県立博物館だより	岡山県立博物館
海雲樓	"	土車 11~13号	平安博物館
穴戸先生 御蔵入札目録	"	沖縄工芸ニュース 5号	沖縄県 工芸振興センター
古典と書画の大即売展目録	"	船と港のはくぶつかん	横浜海洋科学 博物館
古典 第3号	"	会報 No.39	宮古郷土史研究会
世界の古書	"	会報 109	岡山民俗学会
東洋げもの展覧会	"	岡山民俗 137	"
古典籍下見展 観大入礼会目録	"	博物館ニュース No.20	秋田県立博物館
古典籍下見展観大入礼会	"	文化科学館だより No.3	佐世保市 文化科学館
定陵出土文物	"	郷土と博物館才25巻第1号	鳥取県立博物館
市史だより浦添 第4号	浦添市企画調整室	会報 No.20	鳥取県立 博物館協会
博物館だより	別府大学付属 博物館	茨城県歴史館だより No.18	茨城県歴史館
資料館だより No.4	沼津市歴史 民俗資料館	島根県立博物館調査報告	島根県立博物館
資料館だより 第18, 19号	船橋市郷土資料館	横須賀市博物館研究報告	横須賀市博物館
博物館だより 11, 12	名古屋市博物館	山本山古墳群	袋井市教育委員会
美術館だより 159~171号	和歌山県立 近代美術館	国立民族学博物館 研究報告4巻2号	国立民族学博物館
自治おきなわ 11, 12	沖縄県町村会		

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
はくさん 第7巻第2号 博物館建設だより 天文科学館ニュース '80/1,2,3月号 石川県美術館だより No.45 青森県立郷土館だよりNo.4 おおとね No.1 天 花 第3号 館 報 No.259~261 館 報 第14号 会 報 年 報 No.3 座喜味城跡 所 報 本部町史 資料編1 年 報 年 報 昭和53年度 館 報 No.4 青少年 No.116~119 沖縄県教育年報 (昭和53年度) 館 報 美術月刊誌 図書館年報 昭和53年度 紀伊風土記の丘年報第6号 太田記念美術館報 総合事務局報 才83,84号 館 報 第22号 第2回北九州絵画 ビエンナーレ展 ヘンリー・ムーア版画展 恩納村熱田 第2回貝塚発掘調査報告書 人類文化 創刊号 Annual Report No.5	石川県白山自然 保護センター 岩手県教育委員会事務局 博物館建設事務局 明石市立 天文科学館 石 川 県 美 術 館 青 森 県 立 郷 土 館 千 葉 県 立 大 利 根 博 物 館 山 口 県 立 美 術 館 釧 路 市 立 郷 土 博 物 館 浦 和 市 郷 土 博 物 館 神 奈 川 県 博 物 館 協 会 平 塚 市 博 物 館 読 谷 村 教 育 委 員 会 法 政 大 学 沖 縄 文 化 研 究 所 本 部 町 奈 良 国 立 文 化 財 研 究 所 九 州 歴 史 資 料 館 北 海 道 立 三 岸 好 太 郎 美 術 館 青 少 年 育 成 国 民 会 議 沖 縄 県 教 育 委 員 会 大 阪 市 立 自 然 史 博 物 館 ビ ジ ョ ン 企 画 出 版 社 琉 球 大 学 附 属 図 書 館 和 歌 山 県 立 紀 伊 風 土 記 の Ⅱ 管 理 事 務 所 太 田 記 念 美 術 館 総 合 事 務 局 安 房 博 物 館 北 九 州 市 立 美 術 館 " 沖 縄 県 教 育 委 員 会 筑 葉 大 学 人 類 文 化 研 究 所 筑 波 大 学	南島文化 (創刊号) 立教大学博物館研究 No.25 多摩立陵窯跡郡調査報告 多摩窯跡郡分布調査報告書 " 図 版 古代文化 博物館研究 '79No.10~'80No. 2 島津斉彬公伝 桑鶴土橋遺跡 (2) 中頭郡島尻郡内主要御嶽の 植物方言名 研究論集 5 科学館紀要 No.14 東京都美術館紀要 III 西郊民俗 第89号 伊是名貝塚緊急 発掘調査報告書 玉陵復原修理工事報告書 花 綵 沖縄行政機構の変遷 南島研究 (食物文化)第20号 上浜田遺跡 尾尻遺跡 八重山方言の素姓 浜田庄司無尽蔵 南日本文化 (第2次沖縄 学術調査報告書12号) 紀 要 第4,5号 沖縄移民女性史 宮古島上世の城郭史的解釈 街道の歴史 (2) 資料観覧の手びき 沖縄の統計 No.67~68 沖 縄 '79・11~'80・2	沖国大 南島文化研究所 立 教 大 学 東京都教育委員会 " " 財団法人 古代学協会 日本博物館協会 岩崎奨学会 熊本大学文学部 考古学研究室 天 野 鉄 夫 九州歴史資料館 市立名古屋科学館 東 京 都 美 術 館 西郊民俗談話会 伊是名村 教育委員会 沖縄県教育委員会 沖国大考古学 研究会OB会 照 屋 栄 一 南 島 研 究 会 神奈川県 教育委員会 " 宮 平 泰 平 等々力 孝志 南日本文化研究所 (鹿児島短大附属) 嵯峨美術短期大学 沖縄県婦人連合会 奥 平 勇 船橋市郷土資料館 " 沖縄県企画調整 部統計課 沖縄県総務部 広報課

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
国立科学博物館研究報告 (植物学)	国立科学博物館	民俗文化	磁賀民俗学会
" (動物学)	"	馬太伝福音書 解説	新教出版社
" (地質学・古生物学)	"	才末特別オークション	日本美術品競売 株式会社
南アルプスと紀伊半島を中心とする 地域の自然史科学的総合研究 (1) 古稀記念多和田真淳選集	考古学同好会	議会時報 28号	沖縄県議会
津堅島の唐踊り	勝連村教育委員会	美術雑誌目録 (54年2月末現在)	東京都美術館
地方教育行政調査報告書	県教育庁企画室	見学のしおり	群馬県立 歴史博物館
別府大学紀要	別府大学	群馬のはにわ	"
先史・千葉・南総中学遺跡	駒沢大学	総合文化センター答申	沖縄総合文化 センター
横須賀市博物館資料集 3、4号	考古学研究室	東江隨筆	名嘉正八郎、 我部政男
紀要第10集	横須賀市博物館	収蔵資料目録	馬の博物館
琉球の方言	徳島県博物館	情報と資料 No.7	仲村ヨシ
うらそえの文化財 第1集	法政大学	琉球新報 80年史	"
大分県二日市 洞穴発掘調査報告書	沖繩文化研究所	歴史百科、3・4月号	リッカー美術館
日本染織辞典	浦添市教育委員会	琉球・薩摩の庭園	小口庭園
西表岸坑概史	別府大学附属 博物館	銅鐸鑄型特別展	佐賀県立博物館
沖繩の文学	辻合喜代太郎	沖生教研会誌 才12号	沖繩生物教育 研究会
組踊聲楽譜附工工四 第1巻	三木健	沖繩行政機構の変遷 (資料編)	照屋栄一
社会教育要覧	沖繩時事出版	全国遺跡地図 沖繩県	文化庁
あき 第1号	安富祖竹久	Japan Art Auction ④	日本美術品 競売KK
モダンな装い アル・デコ ガラスの美	宮島町博物館協会	小樽市博物館所蔵No.I~No.II 植物標本山本コレクション 特別展	小樽市博物館
波響	北海道立 近代美術館	胎内納入品をもつ仏像 才34回	埼玉県立博物館
木田金次郎展	"	アポロオークション 特集	アポロオークシ ョン株式会社
戦国時代の城郭と館	"	古代の遺跡を調べる No.4 It's Tun Being Young In Korea	自然科学と博物館
「近江の瓦」	近江風土記のII 資料館	セマウル	大韓国総領事館
常設展図録	"	特集コンピューターNo.3	"
特別展 琉球先史時代の器展 古典籍下見展	読谷村立 歴史民俗資料館	「中国白書」中国を告発する	科学博物館
昭和53年度業務報告	東京古典会	北陸の仮面	グエン・タン・ヴィン (ベトナム社会主義共和国)
愛媛県立博物館展示解説	沖繩県伝統 工芸指導所	出土品展示目録(装身具)	石川県立 郷土資料館
埋蔵文化財ニュース ②②	愛媛県立博物館	芸術新潮 1	宮内庁書陵部
教育沖繩	埋蔵文化財 センター	図説日本文化の歴史 6	新潮社
	沖繩県教育委員会	湯呑みと土びん	小学館
			中央公論社

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
琉球処分論 与那城村史 館案内 とやまと自然才2巻冬の号 国宝目録才31集 重要文化財目録第36集 みづゑ総目次 那覇 染織の美 (春) 大分県美術総合選抜展'80 佐藤敬遺作遺作展 玄界のくじら捕り 才19回那覇市統計書 昭和54年度版 第25回展示資料 観覧の手びき 第13回 郷土史講座講義録 青き海の仲間たち 館有資料目録 II 月報 地質調査所月報 第30巻才8~12号 ボストン美術館秘蔵展 小倉遊亀 CHILDREN IN KOREA 今日の韓国 KOREA OBSERVER No.2, No.4 SAEMAUL	金城正篤 新屋敷幸繁 佐賀県立博物館 富山市科学 文化センター 文化庁美術工芸課 美術出版社 那覇市役所 紫紅社 大分県立芸術会館 " " 佐賀県立博物館 那覇市役所 船橋市郷土資料館 " 日本海事広報協会 埼玉県立博物館 旭川市立旭川 郷土博物館 通商産業省工業技 術院地質調査所 京都国立 近代美術館 滋賀県立 琵琶湖文化館 大韓民国総領事館 " " "	日本の石枕 No.6 日本の赤絵 国立博物館ニュース 才1巻~3巻 神々の島 —沖繩久高島のまつり— パリ・ギメ 博物館東洋美術の秘宝 宋代の陶磁 日本美術 (新春) 染織の美 1979 (早秋) " " 1980 (新春) 世界の民俗 東アジア KOREA 九州陶磁名品展 伝統工芸日本発見 第9号 ART VISION 和田三造展 荒川修作全版画展 浮世絵版画展 新収蔵品展 織田一磨 片多徳郎、遠山五郎展 多賀谷伊徳展	千葉県立 房総風土記のII 等々力考志 木村朝貞 (首里高校教諭) 比嘉康雄 京都国立博物館 出光美術館 日本美術新社 紫紅社 " " 平凡社 大韓民国領事館 西日本新聞社 暁教育図書 株式会社 ビジョン企画 出版社 北九州市立美術館 " " " 現代版画センター 北九州市立美術館 "

当館関係条例規則（抄）

○沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年5月15日 条例第24号）

最終改正 昭和53年3月29日条例第16号

（趣旨）

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条、図書館法（昭和25年法律第118号）第10条及び博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名	称	位	置
沖縄県立博物館		那覇市首里大中町1丁目1番地	

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

（博物館協議会）

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則（昭和47年5月15日 教育委員会規則第2号）

最終改正 昭和53年4月1日教育委員会規則第1号

（趣旨）

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

（博物館）

第2条 沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）に、次の係を置く。

庶務係

学芸係

教育普及係

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 予算、決算その他会計事務に関すること。
- (2) 公印の管守に関すること。
- (3) 施設設備の管理に関すること。
- (4) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (5) 博物館協議会に関すること。
- (6) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (7) 博物館資料の利用相談に関すること。
- (8) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。
- (9) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。
- (10) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。
- (11) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。
- (12) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。
- (13) 前各号に定めるもののほか、博物館に関する必要な事務に関すること。

○ 沖縄県立博物館の管理に関する規則 (昭和47年5月15日
教育委員会規則第13号)

[沿革] 昭和53年9月28日教育委員会規則第5号改正

沖縄県立博物館の管理に関する規則をここに公布する。

沖縄県立博物館の管理に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理の責任)

第2条 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下内じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

(諸帳簿)

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならない。

(施設設備の亡失)

第4条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

(警備防災の計画)

第5条 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当直)

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

(文書)

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

(開館時間)

第9条 博物館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 定期休館日 月曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する日

(3) 慰霊の日 6月23日

(4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで

(5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで

(6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。

(寄贈及び寄託)

第11条 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申請書（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄託を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館の禁止等)

第17条 精神病患者、伝染病患者、酩酊者その他館内の秩序を乱す行為のあると認められる者に対し館長は、入館を禁止し、又は退館させることができる。

(施設使用の許可等)

第18条 博物館施設（講堂、第5陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第4号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合に博物館施設の使用を許可することができる。

- (1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの
- (2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
- (3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
- (4) 社会教育上不適当であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(原状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めるときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（昭和53年9月28日教育委員会規則第5号）

この規則は、公布の日から施行する。

第2号様式 (第11条関係)

博物館資料寄託申請書	昭和 年 月 日
申請者	
住所	
氏名	印

沖縄県立博物館長 殿

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託くださるよう申請します。

1	種別	記
2	作者名	
3	作品名	
4	製作年月日	
5	附属品	
6	資料の所在地	
7	寄託期間	昭和 年 月 日から 昭和 年 月 日まで

第1号様式 (第11条関係)

博物館資料寄贈申込書	昭和 年 月 日
申込者	
住所	
氏名	印

沖縄県立博物館長 殿

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。

1	種別	記
2	作者名	
3	作品名	
4	製作年月日	
5	附属日	
6	資料の所在地	
7	時価見積額	
8	寄贈の理由	

受諾書	昭和 年 月 日
-----	----------

上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。

沖縄県立博物館長 印

第3号様式 (第11条関係)

博物館資料受託承認書

昭和 年 月 日

殿

沖縄県立博物館長 (印)

昭和 年 月 日付け申請のあった博物館資料の寄託については、下記により受託します。

記

- 1 種別
- 2 作者名
- 3 作品名
- 4 製作年月日
- 5 附属品
- 6 受託期間 昭和 年 月 日から 昭和 年 月 日まで
- 7 備考

第4号様式 (第18条関係)

博物館施設使用許可申請書

昭和 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者氏名 (印)

電話

下記により貴館施設を使用したいので、許可して下さるようお願いいたします。

記

- 1 使用者

団体名	及び	
代表者名	印	職業 ()
住所	電話	
- 2 使用目的
- 3 使用する施設：1 ホール 2 臨時陳列室
- 4 使用する日時及び期間

自：昭和	年	月	日	午	時	分	()
至：昭和	年	月	日	午	時	分	日間
- 5 予定参加人員 人
- 6 その他必要な資料 (プログラム等)

許可書

昭和 年 月 日付申請の () 使用の件、申請どおり許可します。

昭和 年 月 日

沖縄県立博物館長 (印)

○ 沖縄県立博物館協議会規則 (昭和47年10月2日
教育委員会規則第29号)

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年沖縄県条例第24号)第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

(委員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行なう。

(会議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行なうために必要する費用の弁償を受けることができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年5月15日）
（条例第37号）

最終改正 昭和54年3月29日条例第16号

（趣旨）

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

（使用料の徴収）

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

（使用料の納付）

第3条 使用料は、前納とする。

（使用料の減免）

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

（使用料の不還付）

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

（罰則）

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

（教育委員会規則への委任）

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭和53年3月29日条例第16号抄）

1 この条例は、昭和53年4月1日から施行する。

2 この条例は、昭和54年4月1日から施行する。

別表第1（博物館の入館料）（第2条関係）

使 用 者	入 館 料
一般	100 円
大学生及び高校生	50 円
中学生及び小学生	20 円
団体（20人以上）	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

沖縄県立博物館年報No.13（昭和54年度）

昭和55年8月10日発行

編集・発行 沖縄県立博物館

住所 沖縄県那覇市首里大中町1の1

▽903 TEL: 0988-84-2243
86-4353

印刷 (資) 栄光堂印刷

住所 沖縄市字比屋根1426

TEL: 098939-1341 (代)

沖
縄
県
立
博
物
館